

令和4年2月1日
世田谷総合支所
都市整備政策部

三茶のミライ（三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画）（案）について

1 主旨

三軒茶屋駅周辺は、広域生活・文化拠点として、にぎわいと活気に満ちた魅力ある拠点である一方で、公共的な滞留空間の不足や歩道が狭いなど、さらなるにぎわいや交通結節機能等を備えた拠点を目指す上で課題を抱えている。こうしたことから、平成31年3月にまちのビジョン（将来像）を示した「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針」を策定した。

この方針に掲げる将来像の実現に向けては、区民、事業者、町会、商店街、大学等、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体であるみんなが、まちづくりの担い手として連携していく必要がある。

このため、町会や商店街の代表、民間事業者等の地元有識者や学識経験者から構成され専門的見地から幅広く調査・検討を行う検討委員会及び多様な主体が参加するまちづくり会議、庁内横断的な検討会議により、多様な主体がまちづくりに取組むための基本計画となる「三茶のミライ」を策定することとし、この間、ワークショップやシンポジウムの開催、まちの魅力や理想の未来像など様々な意見を出し合い検討を積み重ねるとともに、PRコーナーの設置やニュースの発行など、まちづくりの関心や気運の醸成にも努めてきた。

こうした取組みにより、多様な主体とともに、まちの未来像を描き、その実現の取組み、実現に結び付く空間デザイン等を示し、参加と協働によるソフトとハードが一体となったまちづくりの進め方を記した、「三茶のミライ（素案）」を昨年8月に策定し、まちづくり会議での区民への素案の報告や意見交換、区民意見募集を実施してきた。

この度、素案への区民意見を踏まえ、「三茶のミライ（案）」を取りまとめたので報告する。

2 案の概要

(1) 「三茶のミライ」の位置付け

三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針に示すまちのビジョン「進化し続ける交流のまち『三茶 Crossing』」の実現に向けて、様々な分野が横断的に包括され、多様な主体が連携したまちづくりの取組みを行うための「みんなの計画」であるということの基本理念とし、「まちの未来像」「まちの未来像実現のための取組み」「まちの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン」「まちづくり推進プロセス」を示す。

(2) 今後の展望

今後、「三茶のミライ」を基に、ソフトとハードが一体となったまちづくりの具体化につながる社会実験の実施とともに、まちづくり会議などにおける情報共有や検討を積み重ね、まちづくりの気運と熟度を高め、推進体制を構築する。

さらに、こうしたまちづくりの活動のフィードバックから、まちの空間利活用などソフト面の取組みと、基盤施設整備などのハード面の取組みをつなげ具体化し、その取組みを計画的に進めることにより、「三茶のミライ」を実現していく。

3 これまでの経過

平成31年	3月	三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針策定
令和元年	7月	都市整備常任委員会（検討委員会設置等の報告）

		8月	第1回検討委員会(検討体制、まちづくり会議内容検討)
		10月	第1回まちづくり会議(区民等ワークショップ:76名参加)
		11月	第2回まちづくり会議(区民等ワークショップ:59名参加)
		12月	第2回検討委員会(シンポジウム内容検討、三茶のミライ検討) まちづくりシンポジウム(基調講演・パネルディスカッション:98名参加)
令和	2年	2月	都市整備常任委員会(まちづくり検討状況の報告)
		6月	第3回検討委員会(三茶のミライ検討)
		7月	まちづくりPRコーナー設置(ふれあい広場内ブースにて約1か月間)
		11月	都市整備常任委員会(まちづくり検討状況の報告)
		12月	第4回検討委員会(まちづくり会議内容検討、三茶のミライ検討)
令和	3年	1月	第3回まちづくり会議(まちづくり活動団体等の活動紹介及び意見交換 :128名参加)
		2月	都市整備常任委員会(まちづくり検討状況の報告)
		3月	第5回検討委員会(三茶のミライ検討)
		6月	第6回検討委員会(三茶のミライ検討)
		9月	都市整備常任委員会(素案の報告) 素案に関する区民意見募集 第4回まちづくり会議(素案の報告、意見交換:113名参加)
		10月	第7回検討委員会 まちづくりPRコーナーの設置(75名来場)

4 区民意見募集の実施結果(概要)

(1) 区民意見募集期間

令和3年9月15日(水)~令和3年10月6日(水)

(2) 周知方法

区のおしらせ「せたがや」9月15日号、ホームページ、区公式 Facebook、Twitter、メールマガジン、YouTube 配信、区政PRコーナー、第4回三軒茶屋駅周辺まちづくり会議(令和3年9月25日開催)

(3) 区民意見提出状況

意見提出人数 18人(封書1人、ファクシミリ1人、持参1人、ホームページ15人)
合計意見数 38件

(4) 主な意見

- ・まちづくり会議での意見を9つの未来像にまとめているが、もう少しシンプルなキャッチが必要と感じる。「職住遊のまち 三軒茶屋」を目指したいのと思う。
- ・未来像5の取組み「新たなモビリティなどの活用による利便性向上促進」実現のため、新たなモビリティが利用しやすいモビリティ空間整備などの記載の検討をお願いしたい。
- ・まち全体で統一的な情報発信がされると、知らなかった場所や店舗を知るきっかけになり、データ基盤を整えることで、足を運ぶ人の利便性向上が増していく。
- ・まちづくり会議などに参加し、三軒茶屋に関心のある人が沢山いることが分かった。今後も積極的に参加し、作り手の一人として関わっていきたい。

そのほかの意見の要旨と区の考え方は別紙1のとおり。

別紙1「三茶のミライ(素案)への区民意見と区の考え方」

5 素案から案への変更内容及び案の内容

(1) 素案から案への変更内容

別紙2「三茶のミライ(素案)から案への変更内容」

(2) 案の内容

別紙3「三茶のミライ(三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画)(案)概要版」

別紙4「三茶のミライ(三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画)(案)」

6 今後のスケジュール(予定)

令和 4年	2月	素案への区民意見と区の考え方の公表
	3月	計画策定
	4月以降	第5回まちづくり会議(まちづくりシンポジウム) 社会実験等の実施(公共空間を活用した滞留空間の創出など) まちづくり推進体制の構築(まちづくり会議の発展、支援組織の検討)

(別紙1)

三茶のミライ（素案）への区民意見と区の考え方

1 区民意見募集概要

(1) 意見募集期間

令和3年9月15日(水)～令和3年10月6日(水)

(2) 周知方法

区のおしらせ「せたがや」9月15日号、ホームページ、区公式Facebook、Twitter、メールマガジン、YouTube 配信、区政PRコーナー、第4回三軒茶屋駅周辺まちづくり会議（令和3年9月25日開催）

2 区民意見提出状況

(1) 区民意見募集

① 意見提出人数 18人（封書1人、ファクシミリ1人、持参1人、ホームページ15人）

② 合計意見数 38件

大項目	中項目	件数
第1章 「三茶のミライ」策定の趣旨	背景と目的	
	策定にあたって	
	対象区域	
	位置付け	
	基本方針	
第2章 「三茶のミライ」で 描くまちの未来像	「まちの未来像」の描き方	
	まちづくり会議と まちづくりシンポジウム	
	まちづくりのテーマ	
	9つの未来像	1
第3章 9つの未来像実現に向けて	基本方針の方針・方策と 9つの未来像の繋がり	
	体系	
	未来像を実現したまちの姿	24
	未来像実現のための取組み	
第4章 今後の展望	まちづくりの推進	3
	推進体制	2
	推進プロセス	4
その他	その他	1
「三茶のミライ」以外への意見		3

3 区民意見募集における意見の要旨と区の方考え方

番号	意見の要旨	大分類	中分類	区の方考え方
1	<p>自身も参加したまちづくり会議での意見を9つの未来像にまとめているが、もう少しシンプルなキャッチが必要と感じ、つまるところ「職住遊のまち 三軒茶屋」を目指したいのだと思う。「職住遊」というシンプルなワードにし、それぞれがその項目に何が足りないか、何を自ら足して行きたいのか、それを積み上げるのがいい。</p>	第2章	9つの未来像	<p>まちづくり会議に、ご参加くださりありがとうございます。</p> <p>三軒茶屋駅周辺では、平成31年3月に策定した「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針」において、まちのビジョンに「進化し続ける交流のまち『三茶 Crossing』」を掲げております。「三茶のミライ」は、このまちのビジョンを実現するために、「みんなの計画」として、区民・事業者・町会・商店街・大学など三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体が参加するまちづくり会議やシンポジウムで出し合った意見を大切にしながら整理・分類し、より具体的に導き出した9つのテーマを基に未来像を描いてきました。</p> <p>未来像実現に向けては、住む人・働く人・学ぶ人など地域の方をはじめ三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々との連携により、情報発信や社会実験などを行い、これを繰り返し、積み重ねながら発展させ、まちの未来像実現のための取組みを進めてまいります。</p>
2	<p>子育て世代向けのスペースやコミュニティの充実として、三軒茶屋交差点近くに、大人はくつろぎ子供も楽しめるスペースがあるとありがたい。子供の遊び場や交流の場は少なく、散歩に行き必要な買い物をして、その後ゆっくり遊べる場所がないので滞在時間は短くなる。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>未来像4には、「まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人とまちを繋ぎ、まち並みとみどりが調和した良好な環境が、人々の愛着心を育てている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「滞在性を向上させる公共的な空間の利活用の推進」や「商業空間の利活用により回遊性を高めるための休憩場所などの整備」、「質、量ともに豊かな地域に</p>
3	<p>子どもと訪れて楽しい街になると嬉しい。子供と三茶に</p>			

	行く交通量の多い大通り（危険性や騒音など）や、ゆったりできる広場やベンチなどがなく、子連れで入れる店が少ない、雨の日に過ごす屋内や地下施設が少ないという「居づらさ」がある。			するための緑地空間整備」などをあげております。 三軒茶屋駅周辺における公共空間を活用し、住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人が、くつろぎ、交流できる空間を設けるなど身近な取組みを展開しこれを積み重ね、子どもの視点も大切にした居心地の良いまちづくりにつなげてまいります。
4	子供達の「遊」の場をどれだけ作れるか。ふれあい広場やいろいろな空間をもっと子供に解放できないのか。引き続き一緒に考えていきたい。			
5	世田谷区の玄関であり、電車・バスのアクセスも良いのに、夜の食事・飲み屋街に見えるのは勿体ない。 三茶らしい文化的な街が、赤ちゃんからお爺ちゃんお祖母ちゃんまで、居心地の良い場所になることを期待する。			
6	三軒茶屋には、玉川通りがあり、騒音、日当たりが悪く、健全な街の体をなしていない。			
7	衛生環境改善として、各テナントの衛生観念向上の啓蒙活動を一層強化し、地域や商店街全体として一体感を持って衛生向上に取り組んで頂きたい。	第3章	未来像を実現したまちの姿	未来像4には、「駅周辺は清潔感あふれる」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「定期的な美化活動及び路上喫煙禁止の啓発活動の推進」をあげております。 良好な環境のまちづくりにつなげていくためにも、清掃活動など身近なことから始め、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と、まちの現状について情報共有しながら検討を積み上げ、地域の困りごとに対応できるまちづくりにつなげてまいります。
8	大通り（国道246号や世田谷通り）で分断され、子供を連れての階段の上り下りや交差点を渡るのは躊躇する。	第3章	未来像を実現したまちの姿	三軒茶屋駅周辺は世田谷区都市整備方針において、本区の「広域生活・文化拠点」として、文化や観光の発信地となっており、渋谷副都心

	<p>三軒茶屋交差点を中心に周囲を回遊するコミュニティビークルやパーソナルモビリティなどがあれば気軽に足を伸ばして三軒茶屋広域を楽しめる。自動運転の低速周遊バスや小型グリーンスローモビリティなど、子供も楽しめるので、検討頂きたい。</p>			<p>に近接し、道路・交通の集散する拠点であることを活かし、商業・サービス、業務、文化などの機能が充実した拠点と位置づけています。</p> <p>「三茶のミライ」には、未来像5に、「誰もが行きたいところに安心して移動ができ、まち全体が繋がっている。環境負荷の低い公共交通や自転車、新たなモビリティなどの様々な移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「新たなモビリティなどの活用に向けた利用環境の整備及び利便性向上促進」などをあげております。</p> <p>モビリティに関する社会実験やまちの空間デザインに関する取組みとともに、交通利便性向上を目指した公共交通などの乗換え機能集約など他の未来像の取組みとも連携することで具体化し、回遊性が向上し安心して気軽に出かけられるまちづくりにつなげてまいります。</p>
9	<p>交通・運輸・輸送の点から街をどうすべきか。商店街を別の所に移転することも含めて、集中より分散を考えて、再検討すべきである。</p>			
10	<p>三軒茶屋は、世田谷区の交通の中心であり、交通網を如何に整備するかが大きな問題である。世田谷線の他の手段を考慮すべきである。世田谷区役所への移動はどのようにするのか？新しい交通ネットワークが必要だろう。</p>			
11	<p>未来像5の取組み「新たなモビリティなどの活用による利便性向上促進」実現のため、自動運転を見据えたオンデマンドバス、キックボードなど具体的なモビリティの記載、新たなモビリティが利用しやすいようモビリティ空間整備について、追加記載の検討をお願いしたい。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>新たなモビリティの利便性向上を促進していくためには、空間整備などを含めた利用環境の整備が必要であることから、未来像5の取組みを「新たなモビリティなどの活用に向けた利用環境の整備及び利便性向上促進」といたします。</p> <p>具体的なモビリティの記載については、今後の技術開発などによる様々な手法が考えられるため、イラストを用いた表現をしております。</p>
12	<p>未来像6の取組みについて、駅から地上への動線は狭い階段とエレベーター2基で、広く歩きやすい階段、エスカレーター、エレベーター、地下空間の整備といった歩行者ネットワーク改善によ</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>未来像5には、「地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できるなど、誰もが行きたいところに安心して移動ができ、まち全体が繋がっている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「通行環境の向上を目指した歩きや</p>

	る交通結節点としての駅の利便性向上、人々の活動促進について追加記載の検討をお願いしたい。			<p>すい歩行者空間整備」や「南北方向の分断回避を目指した道路横断機能の整備」などをあげております。</p> <p>また、未来像6を実現するための取組みとして、「交通利便性向上を目指した、公共交通などの乗換え機能の集約」、「地下空間における魅力ある広場などの創出」などをあげております。</p> <p>歩行者ネットワークの改善については、周辺開発などの機会を捉えた改善も必要になると考えております。また、地下空間の活用には、多くの課題や物理的要素もありますが、公共的空間の創出やルールづくり、歩行者ネットワーク改善も含め、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と、こうした点について共有しながら検討を積み重ね、国道管理者や交通管理者、鉄道事業者など関係機関とまちの状況や情報共有を図り、「三茶のミライ」の実現に努めてまいります。</p>
13	国道246号の歩道が狭すぎる。田園都市線三軒茶屋駅も狭すぎる。246号の下に地下道や地下街を作れないか。			
14	世田谷線三軒茶屋駅から田園都市線三軒茶屋駅へのアクセスが悪く、歩く途中で雨に濡れ、喫煙所から煙も流れる。アクセス通路の途中に、イベントスペースや店などは不要。通勤や行楽で三軒茶屋は通過点である。			
15	世田谷線改札前と、世田谷線～田園都市線の乗換経路にある三茶パティオの一部に屋根がなく、雨の日に傘を差さざるを得ないので、屋根をつけてほしい。			
16	「三軒茶屋は世田谷区の表玄関」という言葉に相応しいものが描かれていない。表玄関といえば行政の中心施設が集約していることが想定されるが、区役所の大きなものはなく、せめて総合支所くらいは移転しても良いと希望する。「表玄関」と表現するに相応しく、世田谷区が覚悟を決めて取り組む姿を見せて欲しい。更に例えば、未来像7に災害に強く、安全・安心のあるまちとあり、老朽化した消防署を取り込み、防災センター機能も併設するといった姿勢を見せて欲しい。	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>世田谷総合支所については、区民の利便性の観点等から、移転整備に向けた検討も重ねましたが、コストや規模、人員面、で課題が大きいことから、現在の本庁舎敷地内に整備することとしました。</p> <p>「三茶のミライ」では、安全・安心に係る未来像のほか、未来像6に「公共サービスを始めとした拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている」姿を描いており、これらを踏まえ、「三茶のミライ」の実現に努めてまいります。</p>

17	<p>三軒茶屋地域の生活環境の安心安全を向上させる開発をしていただきたい。夜間・深夜営業の飲食店が増えており、酔っ払い等（落書き）、治安が乱れるようになった。深夜人口を増やすような開発はしないでいただきたい。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>未来像6には、「拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「市街地の再構築として高度利用などによる魅力ある拠点の創出と商業・業務・滞在施設など機能集積」をあげており、こうした集積にあたっては、安全・安心が向上する開発を誘導してまいります。</p> <p>また、未来像7には、「まちに関わる人々が連携でき、防犯に対する体制が整っている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「防犯パトロール活動の継続体制構築と防犯体制の担う人材育成」や「まちの治安維持・向上を目指した仕組み構築」をあげております。</p> <p>未来像の実現には、地域の方をはじめ三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と連携し、例えば、地域の防犯パトロールなど身近なことから始め、こうした取組みを積み上げ、安全・安心の向上につながるまちづくりを進めてまいります。</p>
18	<p>「三茶のミライ」の未来像、空間デザインの中からアイデアを取り入れた再開発を実現していきたい。</p> <p>街の建物には、防災面に問題があり早急に改善を要するものなどもあり、再開発準備組合も検討を進め、地権者が再開発の推進を望んでいる。現実的な街づくりに本格的に着手していなければならないのではないか。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>三軒茶屋駅付近は、老朽木造店舗などが幅の狭い道路に沿って建ち並ぶなど防災面での課題を抱えており、「三茶のミライ」では未来像7に、「建物の不燃化・耐震化・防災空間の充実などにより、防災性が向上している」姿を描いております。</p> <p>当該地区は、関係権利者により構成する市街地再開発準備組合が、再開発事業への合意形成に向け取り組んでおり、区は「三茶のミライ」のもと、魅力ある雰囲気継承する空間づくりについても創意工夫を図り取り組む再開発準備組合の活動を支援し、再開発事業に関する地域での</p>
19	再開発は、高い建物を建てるイメージがあり、それで			

	<p>は、三角地帯の景観や温かみが守りにくそう。</p> <p>しかし、防災の観点から耐火の建物にするため、個別の建て替えにあたり区が補助金を出してもらえると助かる。</p>			<p>理解を広げ、9つの未来像実現に向けたまちづくりにつなげてまいります。</p>
20	<p>三軒茶屋及びその周辺は、地震による大規模火災になる危険性が大きいいため、周辺部を含めて大規模火災の起こらない街をつくること。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>三軒茶屋駅周辺は世田谷区都市整備方針において、災害に強い市街地の形成を図るため、防災性の高い建築物の整備を誘導するなどしております。</p> <p>「三茶のミライ」では、未来像7に、「建物の不燃化・耐震化・防災空間の充実などにより防災性が向上している」姿を描いており、これを実現するための取組みとして、「建築物の建替えや面的整備などを契機とした延焼遮断帯及び耐震化推進」、「防災に関する情報発信」などをあげています。</p> <p>三軒茶屋駅付近では、市街地再開発準備組合が多くの人で賑わう拠点としての課題を解決するため、老朽木造店舗などの更新に向け取り組んでおります。その周辺においても、住民参加による防災まちづくりの推進に力を入れており、建築物の不燃化、耐震化の促進や、道路の拡幅整備などを進めてきております。</p>
21	<p>アートに予算は割かないで、インフラ整備に金をかけて、安全安心の街づくりを行ってほしい。老朽化したマンション等を再開発して、安全安心な街にしてほしい。</p>			<p>また、アートに関することについては、未来像1に、「次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、新たなアートや文化が生まれ、まち全体がアートや文化であふれている」姿を描いており、まちの歴史や文化を次世代に継承していく取組みも必要と考えております。</p>
22	<p>国道246号と茶沢通りの合流地にある三軒茶屋は、大量の水流がぶつかり水害の恐れがあると考えますが対策はどうなっているか。</p>			<p>水害への対策については、国道246号と茶沢通りなどが交差する三軒茶屋交差点付近は、周辺地域より標高が高い箇所となっており、過去の浸水確認箇所一覧（平成元年～令</p>

				<p>和3年10月)において、区が把握している浸水は確認されておりません。一方で、交差点付近から離れた緑道近くでは、浸水が確認されているため、区では水害対策として、区道の雨水を地中に浸透させるため、浸透ますや透水性舗装などの整備をしております。さらに、雨水処理するための公共下水道を管理する東京都と連携しながら、対策に努めてまいります。</p> <p>引き続き、災害に強く安全・安心のあるまちの実現に向けて、取り組んでまいります。</p>
23	<p>三軒茶屋は小規模な店舗が多くそれが魅力でもあるが、まち全体で統一的な情報発信がされると、知らなかった場所や店舗を知るきっかけになる。地域 SNS や地域通貨の利用促進、地域の店舗の混雑状況が可視化できるサービス導入など、まち全体で情報発信やデータ基盤を整えることで、日々足を運ぶ人の利便性向上が増していく。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>まち全体での情報発信がされ、情報が共有されることは、大切なことと考えております。こうしたご意見を踏まえ、未来像9を実現したまちの姿を「様々な形でまちづくりに関われる機会が設けられ情報が提供されている」といたします。</p> <p>また、未来像実現のための取組みを「自主的なまちづくり推進体制及び日常的な情報発信などによる取組み参加推進の仕組み構築」とし、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々の利便性向上へ、取組みを積み上げ、まちづくりにつなげてまいります。</p>
24	<p>未来像6の取組み「公共的空間の活用促進」の前提として、多様な主体による質・量ともに高いレベルでの公共的空間の創出を促すため、官民連携による公共的空間の整備について追加記載の検討をお願いしたい。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿、まちの空間デザイン	<p>「三茶のミライ」の実現にあたっては、官民連携は欠かすことのできない取組みであり、区民・事業者・町会・商店街・大学など、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体が連携した「みんなの計画」であるということを基本理念とし、9つの未来像実現に向けての各取組みは、官民連携の要素を踏まえていくことを前提としております。</p>
25	<p>パブリックスペース確保には街区の再編、高度利用が前提となるため、「拠点性を活かした都市機能集積、パブリ</p>	第3章	未来像を実現したま	<p>パブリックスペースの創出には、市街地の再構築による高度利用も有効な手法と考えております。</p>

	<p>ックスペースの創出、防災性の向上」の考え方に高度利用の追加記載の検討をお願いしたい。</p>		<p>ちの姿、まちの空間デザイン</p>	<p>未来像6には、「拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「市街地の再構築として高度利用などによる魅力ある拠点の創出と商業・業務・滞在施設など機能の集積」をあげており、また、「まちの空間デザインの大切な4つのポイント」には、高度利用の手法も踏まえ、「拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上」を記載しております。</p>
26	<p>三軒茶屋のような回遊性のポテンシャルの高いまちのビジョンにおいて、ウォークアブルなまちづくりと関連するキーワードが多数盛り込まれたことは、大変うれしい。特に、シェアドスペース、時間指定レーンマネジメントなどは、ストリートデザイン・マネジメントの主流となりそのようなキーコンセプトで、是非積極的に取り組んでいただきたい。</p>	第3章	<p>まちの空間デザイン、まちづくりの推進</p>	<p>居心地が良く歩きたくなるウォークアブルなまちづくりは、三軒茶屋にも大切な視点と考えております。</p> <p>「三茶のミライ」には、「まちの空間デザインの大切な4つのポイント」に、歩行者空間の充実や、回遊性の向上、南北移動の円滑化、パブリックスペースの活用・創出をあげております。</p> <p>今後、まちづくり会議の継続や、国のまちなかウォークアブル推進プログラムなども参考にしながら社会実験を行うなど、小さな取組みを展開し、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々の連携を深め、多様な主体によるソフトとハードが一体となった大きなまちづくりにつなげてまいります。</p>
27	<p>三軒茶屋地域や商店街に人が回遊する事で、地域特性が多様化し、文化や歴史がつくられ、商店街も発展するため、南北の回遊性を高める事は重要だと思う。建物の間の2階以上の部分をつなげ地下空間を開発して、地上に人が歩かないような動線の開発は望ましくない。</p>			

28	歩道拡幅や仮設物を用いた小規模なまちの居場所づくりなど、定石の手法や小さなアクションの積み重ねと並行して、ぜひチャレンジングな都市デザインが実現することを期待している。			
29	「推進体制」について、TMO（BIDが良い）を法人化して早期に活動できるように望む。参加者は一株主となり、責任ある参加主体としなり、区も出資して一定の責任（当初の中心市街地活性化法の時のように）を持って参加頂きたい。	第4章	まちづくりの推進	持続可能な協働のまちづくりを推進するためには、住む人・働く人・学ぶ人をはじめとするまちづくりの担い手となる方々や、まちづくり支援組織、世田谷区がそれぞれの立場や強みを活かしながら参加する体制が必要と考えており、区は担い手の一員として参加するとともに、公共施設や公的施設の利活用に向けた調整などの支援をしていきます。 支援組織は、担い手同士の連携を支援し、関係者間の調整を担うなど、まちづくりを中立的な立場で支援していくことが必要と考えており、今後、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と推進体制の構築に向けた実現手法も検討してまいります。
30	区民と行政が共に歩むための翻訳をするようなしなやかさとクリエイティビティを備えた公民の中間組織があると良い。 理論的には正しいのに実行されない場合、そこに欠けているものは何か。河を渡る橋を三軒茶屋からまずかけてほしい。			
31	まちづくり会議などに参加し、三軒茶屋に関心のある人が沢山いることが分かった。 誰もがまちづくりに関わる未来が一番大事と思い、いい街になるかどうかの分かれ道は、自分達の街を自分達で作っていくという当事者がどれくらいいるかだ。 今後も積極的に参加し、作り手の一人として関わっていききたい。	第4章	推進プロセス	誰もがまちづくりに関われることは、あらゆるまちづくりに共通する大切なことと考えております。 「三茶のミライ」を基に、継続してまちづくり会議を開催し、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と情報共有や意見交換を図り、新たなまちづくりの担い手や支援組織の育成などに取り組んでまいります。 また、三軒茶屋駅周辺における広場等の活用事例を踏まえ、公共空間などの利活用の工夫を図り、まちづ

32	<p>パブリックスペース活用による「くつろぎ、拠点性、地域参加」は、魅力的なまちには欠かせない。一方、各未来像がどの形になればゴールか？をより明確にすべき。例えば、キャロットタワー、ふれあい広場など、数多くの活用事例があり、事例を深掘り・見つめ直し、より具体的な未来像を描く、この先区民と考える機会を改めて作って頂きたい。</p>			<p>くりの気運と熟度を高めていきます。さらに、学識経験者や地元有識者などの助言も受けながら、9つの未来像実現に向け、まちづくりの担い手が積極的かつ様々な形で関与できる推進体制の構築を目指していきます。</p> <p>今後もぜひご参加ください。</p>
33	<p>9つの未来像は、すぐに取り組めるものから長期的なものまである。街づくりは単線ではなく複線で取り組むのが良いので、推進体制が整ったら、それぞれのロードマップを描いて、複数のチーム編成で取り組むと良い。</p> <p>まちの姿・未来像は、時代とともに変わるので、これからも参加し、皆さんと議論を重ねていきたい。</p>			
34	<p>9つの未来を実現するために、今後の基本計画、基本設計、実施設計に携わりたい。</p>			
35	<p>区の基本姿勢として個別の三軒茶屋とその近隣地域のみを視るのではなく、本計画が全区民にどう関わりどういう利益をもたらすのか、区を俯瞰する視点から吟味し考慮し進めるよう要望する。</p>	その他	その他	<p>世田谷区都市整備方針において、商業業務機能及び文化情報発信機能が集積し、全区的な「核」とすると同時に、本区を越えた広域的な交流の場を「広域生活・文化拠点」とし、三軒茶屋、下北沢、二子玉川駅周辺地区の3地区を位置づけています。</p> <p>三軒茶屋駅周辺地区は、本区の文化や観光の発信地となっており、渋谷副都心に近接し、道路・交通の集散する拠点であることを活かし、商業・サービス、業務、文化などの機能が充実した親しみやすく庶民的雰</p>

				<p>困気をもつ拠点とする、としております。これに基づき三軒茶屋駅周辺でのまちづくりの進め方を明らかにする目的として、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体と「三茶のミライ」をとりまとめてきました。</p> <p>今後、社会実験や多様な主体と連携した活動のフィードバックからまちづくり活動と広域生活・文化拠点としてのまちの発展に向けた取組み内容を具体化し、「三茶のミライ」を実現に努めてまいります。</p>
36	<p>区民サービスの地域格差・偏りを是正するため、文化関連事業に関して、二子玉川地区においても三軒茶屋と同等に区の資源の投下を要望する。</p>	<p>「三茶のミライ」以外への意見</p>	<p>区の文化・芸術事業については、区民サービスの地域格差や偏りが生じることのないよう、関係機関と連携し取り組んでいきます。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の文化・芸術振興施策の参考とさせていただきます。</p>	
37	<p>従来実施されてきた文化関連事業の一定部分について、玉川総合支所せせらぎホールを意図的・積極的に活用するよう要望する。</p>		<p>区では、区民の誰もが文化・芸術に触れ、体験・参加し、気軽に楽しむ機会を創出するため、区内各地域のさまざまな施設を利用し文化・芸術事業を展開しています。</p> <p>玉川せせらぎホールの活用につきましては、今後の事業計画検討の参考とさせていただきます。</p>	
38	<p>区最南部（東玉川、奥沢一丁目～四丁目）から自由通りを経由して、三軒茶屋及び区役所へ直行するバス路線の新設を推進するよう要望する。</p>		<p>区では南北公共交通の強化や公共交通不便地域対策に取り組んでおりますが、新たなバスの導入には、事業の採算性やバスが通行する道路の安全性の確保、沿道住民の理解など、課題が少なくありません。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の南北公共交通の参考とさせていただきます。</p>	

(別紙2)

三茶のミライ（素案）から案への変更内容

変更内容	該当頁
<p>第1章 2「策定にあたって」 文章の追加等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、<u>地球温暖化に伴う気候変動や新型コロナウイルス感染症の拡大</u>などによる社会動向に対応したまちづくりとして、職住融合*、歩いて暮らせるまち、ゆとりあるオープンスペース*へのニーズなどが高まっており、<u>三軒茶屋駅周辺の地区の特性に応じた多様なみどりづくり</u>とともに、～ ・「三茶のミライ」は、まちの主役であるみんなとともに、<u>持続可能なまちづくり</u>を進めながら～ 	P3
<p>第2章 2「まちづくり会議とまちづくりシンポジウム」 「第4回まちづくり会議概要」及び「まちづくりの可能性について」の追加</p>	P10
<p>第3章 2「9つの未来像を実現したまちの姿」未来像2 取り組む主体の記号の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業や金融機関、産業支援機関、大学などと連携した創業推進・事業支援「<u>住む人、学ぶ人、土地建物を持つ人、支援する組織</u>」 <p>新しい取組みに繋げたいアイデアの追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>三茶ブランドの掘り起こし</u>」 	P17
<p>第3章 2「9つの未来像を実現したまちの姿」未来像3 取り組む主体の記号の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な働き方を推進する起業・創業・事業者への支援「<u>住む人、学ぶ人、支援する組織</u>」 ・新たな産業の育成となる起業や就労に関する情報発信「<u>住む人、学ぶ人、土地建物を持つ人、支援する組織</u>」 	P18
<p>第3章 2「9つの未来像を実現したまちの姿」未来像4 9つの未来像を実現したまちの姿の文章の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち並みとみどりが調和した<u>良好な環境</u>が、人々の愛着心を育てている。 	P19
<p>第3章 2「9つの未来像を実現したまちの姿」未来像5 9つの未来像を実現したまちの姿の文章の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>環境負荷の低い</u>公共交通や自転車、新たなモビリティなど～ <p>9つの未来像実現のための取組みの文章の追加等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなモビリティなどの活用に向けた<u>利用環境の整備</u>及び利便性向上促進 <p>新しい取組みに繋げたいアイデアの追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>優しい案内、ガイド、サインの設置</u>」 	P20

<p>第3章 2 「9つの未来像を実現したまちの姿」 未来像 8</p> <p>新しい取組みに繋がりたいアイデアの追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>三茶の魅力を発見する学びの場</u>」、「<u>観光オンラインツアー</u>」 	P23
<p>第3章 2 「9つの未来像を実現したまちの姿」 未来像 9</p> <p>9つの未来像を実現したまちの姿の文章の追加等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始める・支える・賛同するなど、様々な形でまちづくりに関われる機会が設けられ情報が共有されている。 <p>9つの未来像実現のための取組みの文章の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的なまちづくり推進体制及び日常的な情報発信などによる取組み参加推進の仕組み構築 <p>取り組む主体の記号の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的なまちづくり推進体制および日常的な情報発信などによる取組み参加推進の仕組み構築「<u>住む人、学ぶ人、土地建物を持つ人、働く人</u>」 <p>新しい取組みに繋がりたいアイデアの追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>データ連携基盤</u>」 	P24
<p>第3章 4 「9つの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン」</p> <p>文章の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗換え、回遊性の向上の考え方「<u>居心地が良く、歩きたくなるまちの回遊性を充実させていきます。</u>」 	P28
<p>第4章 1 「ソフトとハードが一体となったまちづくりの推進」</p> <p>文章の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加えて、<u>近年の気候変動を考慮した対応や、今般のコロナ危機を～</u> ・<u>今後の社会動向も踏まえた多様な主体の連携による～</u> 	P30
<p>第4章 3 「ソフトとハードが一体となったまちづくり推進プロセス」</p> <p>「社会実験とは」の追加</p>	P34
<p>結びに「これからのまちづくりの可能性」の追加</p>	P35～
<p>用語解説 「サステナブル・リカバリー」</p> <p>文章の追加等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会へ移行していくことを目指す（持続可能な回復）という考え方で、<u>東京都はその実現を提唱しています。</u> 	P44

三茶のミライ（三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画）（案）概要版

第1章 「三茶のミライ」策定の趣旨

(1) 策定の背景と目的

「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針」に掲げるまちのビジョン「進化し続ける交流のまち『三茶 Crossing』」の実現に向けて、区民・事業者・町会・商店街・大学・区など、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体である「みんな」が、まちづくりの担い手として、相互に連携していく必要があります。

「三茶のミライ」は、みんなで「まちの未来像」を描き、「まちの未来像実現のための取組み」を共有し、相互連携によるソフトとハードが一体となったまちづくりの進め方を明らかにすることを目的に策定しました。



(第1回まちづくり会議)



(第2回まちづくり会議)



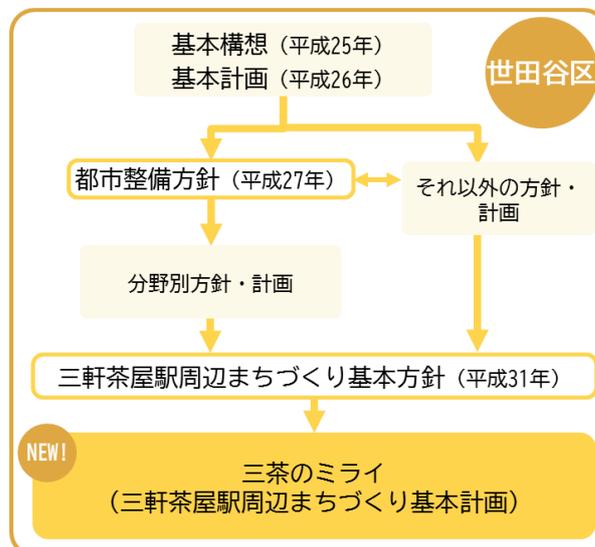
(まちづくりシンポジウム)

(2) 位置付け

「三茶のミライ」は、様々な分野が横断的に包括され、多様な主体が連携したまちづくりの取組みを行うための「みんなの計画」であるということの基本理念とし、「まちの未来像」、「まちの未来像実現のための取組み」、「まちの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン」、「まちづくり推進プロセス」を示すものです。

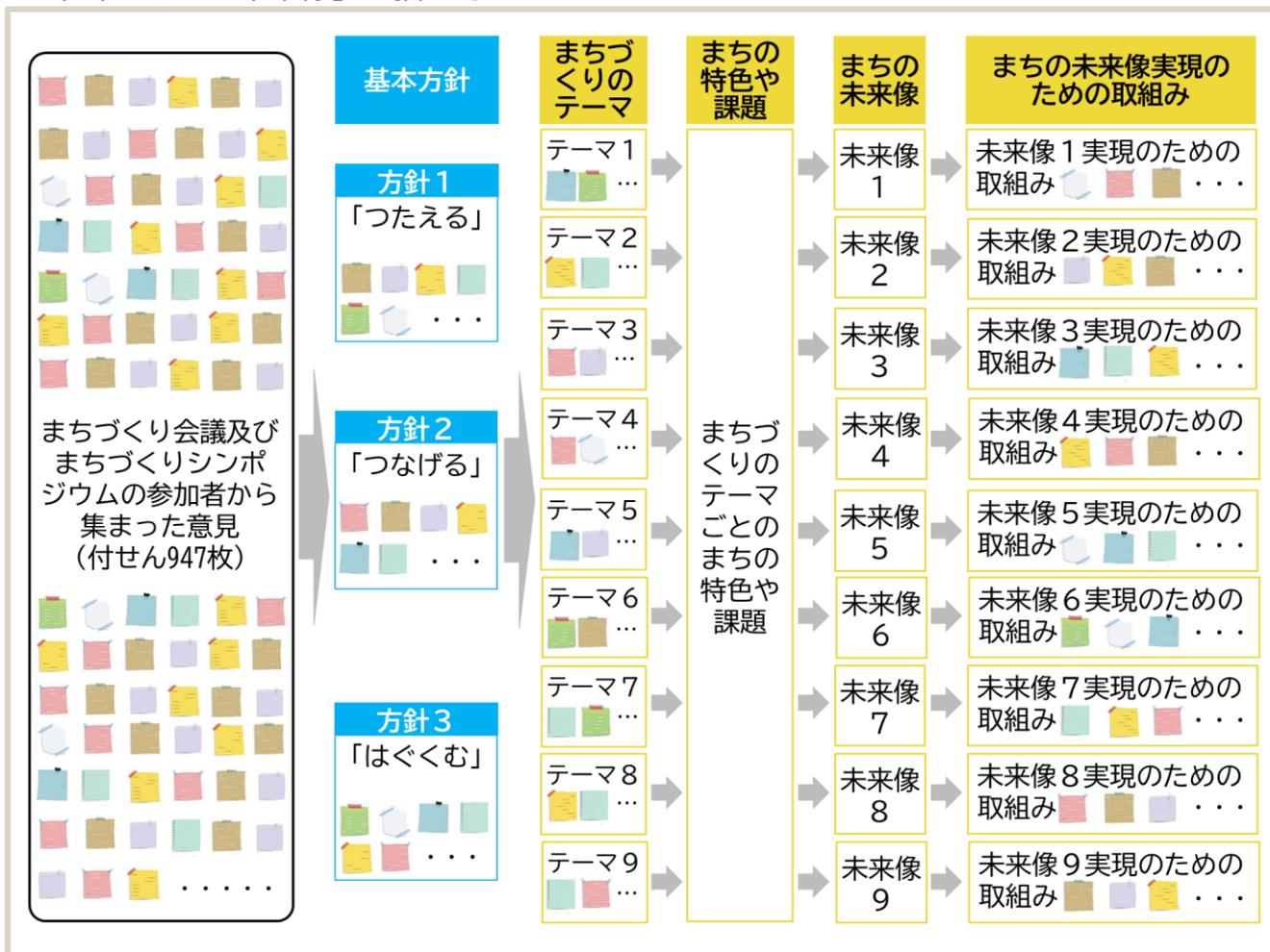
今後、「三茶のミライ」を基に、ソフトとハードが一体となったまちづくりの具体化につながる社会実験の実施とともに、まちづくり会議などにおける情報共有や検討を積み重ね、まちづくりの気運と熟度を高め、推進体制を構築します。

さらに、こうしたまちづくりの活動のフィードバックから、まちの空間利活用などソフト面の取組みと、基盤施設整備などハード面の取組みにつなげ具体化し、その取組みを計画的に進めることにより、「三茶のミライ」を実現していきます。



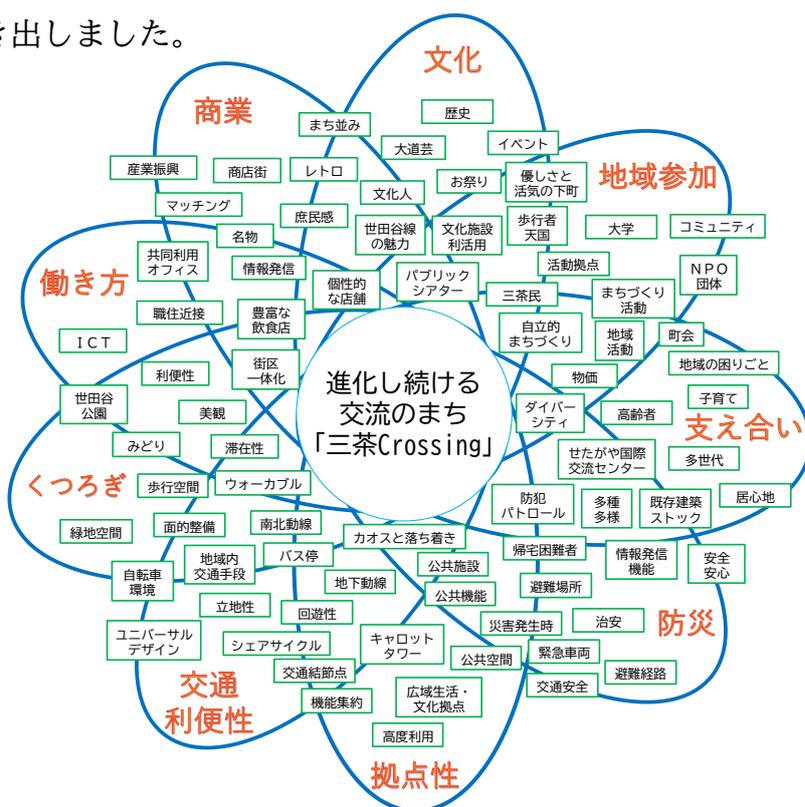
第2章 「三茶のミライ」で描くまちの未来像～みんなの計画に～

(1) 「まちの未来像」の描き方



(2) みんなの言葉から導き出したまちづくりのテーマ

三軒茶屋駅周辺のまちを表現したみんなの言葉を基に、9つのまちづくりのテーマを導き出しました。



- 文化
- 商業
- 働き方
- くつろぎ
- 交通利便性
- 拠点性
- 防災
- 支え合い
- 地域参加

(1) 9つの未来像と未来像実現のための取組みの体系

まちづくりのテーマ	9つの未来像	9つの未来像を実現したまちの姿	9つの未来像実現のための取組み
文化	1 歴史を継承しアートを生み出すまち	次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、その魅力が世界中に発信されている。文化創造や活動参加の機会を増やし、作り手が集う場所でアートや文化が生まれ、まち全体にあふれている。	<ul style="list-style-type: none"> 芸術創造や活動への幅広く多様な参加の推進と制度的支援 文化施設などのインフラを積極的に利活用し、人と人を繋ぐ仕組み構築 など
商業	2 個性豊かな店が通りを彩るまち	個性豊かな店舗が通りを彩り、界わい性を育んでいる。様々な事業者や商店などが連携することによって新たな魅力を生み、まちの活気が継続している。	<ul style="list-style-type: none"> 魅力あるまち並みなどを継承するためのまちづくりルール構築 地域活性化に向けた、多世代が楽しめるイベント実施 など
働き方	3 暮らしの近くに「働く」があるまち	暮らしの近くで様々な働き方ができる環境があり、そうした場所に人が集まり、活気づいている。起業・創業への後押しが、人々を呼び込み、新たなチャンスが生まれている。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な働き方促進に向けたICT環境整備 自由自在な仕事の仕方ができるオフィス整備および利用推進 など
くつろぎ	4 くつろぎの空間が育まれるまち	まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人とまちを繋いでいる。駅周辺は清潔感にあふれ、まち並みとみどりが調和した良好な環境が、人々の愛着心を育んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 街区一体化などの面的整備に合わせ、まちづくり活動ができる広場空間整備 質、量ともに豊かな地域にするための緑地空間整備 など
交通利便性	5 誰でも気軽に出かけられるまち	地上や地下に広がる複層的なまちなかを、誰もが安心して移動ができ、まち全体が繋がっている。環境負荷の低い公共交通や自転車、新たなモビリティなどの移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 通行環境の向上を目指した歩きやすい歩行空間整備 南北方向の分断回避を目指した道路横断機能の整備 など
拠点性	6 拠点性を生かして人々の活動を支えるまち	古くからの街道の分岐点であることや公共交通が充実している利便性を生かし、公共サービスを始めた拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている。	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の再構築として高度利用などによる魅力ある拠点の創出と機能の集積 地下空間における魅力ある広場などの創出 など
防災	7 災害に強く、安全・安心のあるまち	まちに関わる人々が連携できる、共助による防災、防犯及び緊急時に対する体制が整っている。建物の不燃化・耐震化・防災空間の充実などにより、防災性が向上している。	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の建替えや面的整備などを契機とした延焼遮断帯及び耐震化推進 駅周辺の防災性向上のための帰宅困難者などの滞留空間整備 など
支え合い	8 暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち	多様な暮らしが重なり合う中で、助け・支え合い、相互理解を深めながら、お互いを尊重し合う関係性が生まれ、包容力が地域内外でのさらなる交流を生み出している。	<ul style="list-style-type: none"> パブリックスペースを活用した地域活動の推進 団体の分野や世代を超えた交流を促進させるイベント実施 など
地域参加	9 誰もがまちづくりに関われるまち	まちに関わる人々が主体的にまちづくりに参加し、まちを育てていける仕組みがある。始める・支える・賛同するなど、様々な形でまちづくりに関われる機会が設けられ情報が提供されている。	<ul style="list-style-type: none"> 自主的なまちづくり推進体制及び日常的な情報発信などの取組み参加推進の仕組み構築 まちづくりに向けた区民参加の仕組み構築 など

(2) まちの空間デザインの考え方と4つのポイント

9つの未来像実現のための取組みには、すぐに始められるものがある一方、都市基盤に関する新しい空間を創出するものもあります。これらを推進するためには、多様な主体同士が連携し、具体化していくことが必要であり、今ある空間の利活用や新たな空間の創出、さらにまちづくりの仕組みやルールの構築を一体的に捉え、「まちの空間デザイン」としてまとめました。

9つの未来像実現のための取組みから抽出した「まちの空間デザインに関する取組み」と基本方針で示す「機能イメージ」、「基盤整備イメージ」を基に4つのポイントに整理し、今後、まちの空間デザインに関する取組みについて、社会実験などを実施することで具体化し、一つひとつの取組みが繋がり加速し、また、新たな取組みも加わり、みんなが連携した社会実装に繋がっていきます。

4つのポイント	考え方
① まちの個性・魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用 (未来像1、2、6、8)	まちの歴史・文化や個性豊かな店舗などの界わい性など、まちの個性の継承や、地域内外のさらなる交流など新たな魅力を生み出すために、魅力あるまち並みを継承するまちづくりのルール構築やパブリックスペース等の活用を図っていきます。
② 拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上 (未来像3、4、6、7)	拠点ならではの機能の集約や防災性の向上を一体的に進め、人々の活発な活動を支えていくために、市街地の再構築による拠点の創出や、暮らしの近くで様々な働き方ができる環境などの機能集積と合わせて、広場空間整備や延焼遮断帯の形成及び建築物などの耐震化を図っていきます。
③ 歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗換えなど回遊空間の向上 (未来像4、5)	まち並みとみどりが調和した居心地の良い場所を生み出すとともに、公共交通の利用や乗換えが快適となるよう、質、量ともに豊かな地域にするための緑地空間や歩きやすい歩行空間などを整備し、居心地が良く、歩きたくなるまちの回遊空間を充実させていきます。
④ 南北移動の円滑化、地下空間の活用・創出 (未来像5、6)	地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できるなど、まち全体を繋げ、誰もが行きたいところに安心して移動できるように、南北分断解消のための道路横断機能や地下空間における魅力ある広場などの整備の誘導を図っていきます。



This grid contains nine circular illustrations, each representing a specific future vision scenario:

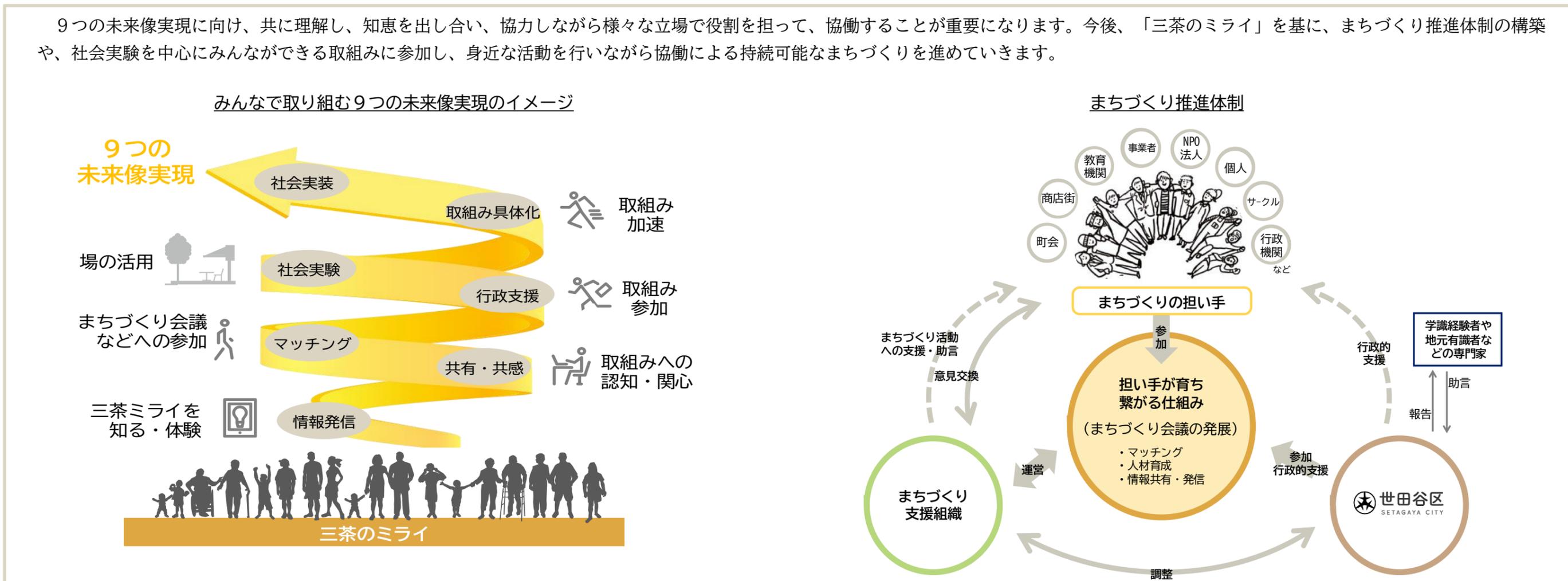
- 未来像 1:** 芸術創造への参加の推進とそれに対する制度的支援 (Promotion of participation in art creation and institutional support).
- 未来像 2:** 魅力あるまち並みなどを継承するためのまちづくりルール構築 (Construction of town-making rules for inheriting attractive townscapes).
- 未来像 6.8:** パブリックスペースを活用した地域活動の推進 (Promotion of local activities utilizing public spaces).
- 未来像 4:** 面的整備に合わせ、まちづくり活動ができる広場空間整備 (Spatial improvement of plaza spaces in line with area-wide improvements).
- 未来像 3,6:** 魅力ある拠点の創出と機能の集積 地下空間における魅力ある広場などの創出 (Creation of attractive hubs and concentration of functions, and creation of attractive plaza spaces in underground spaces).
- 未来像 7:** 建替えなどを契機とした延焼遮断帯及び耐震化の促進 (Promotion of firebreaks and seismic reinforcement triggered by building replacement).
- 未来像 4:** 質、量ともに豊かな緑地空間整備 (Spatial improvement of green spaces in both quality and quantity).
- 未来像 5:** 歩きやすい歩行空間整備 (Spatial improvement of walkable pedestrian spaces).
- 未来像 5:** 南北分断回避を目指した道路横断機能整備 (Spatial improvement of road cross-section functions aiming to avoid north-south division).

凡例

- まちの個性・魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用 (Future images 1, 2, 6, 8)
- 拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上 (Future images 3, 4, 6, 7)
- 歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗換え、回遊性の向上 (Future images 4, 5)
- 南北移動の円滑化 (Future images 5, 6)
- 地下空間の活用・創出 (Future image 5, 6)
- 回遊・交流に資する地域資源
 - 回遊路 (Future images 4, 5, 6)
 - 公園、緑道、庁舎等の公共施設 (Future images 4, 5, 6)
 - 大学、寺院等の公的施設 (Future images 4, 5, 6)
- 交流の軸 (Future images 4, 5, 6)

(1) 参加と協働による持続可能なまちづくり

9つの未来像実現に向け、共に理解し、知恵を出し合い、協力しながら様々な立場で役割を担って、協働することが重要になります。今後、「三茶のミライ」を基に、まちづくり推進体制の構築や、社会実験を中心にみんなができる取組みに参加し、身近な活動を行いながら協働による持続可能なまちづくりを進めていきます。

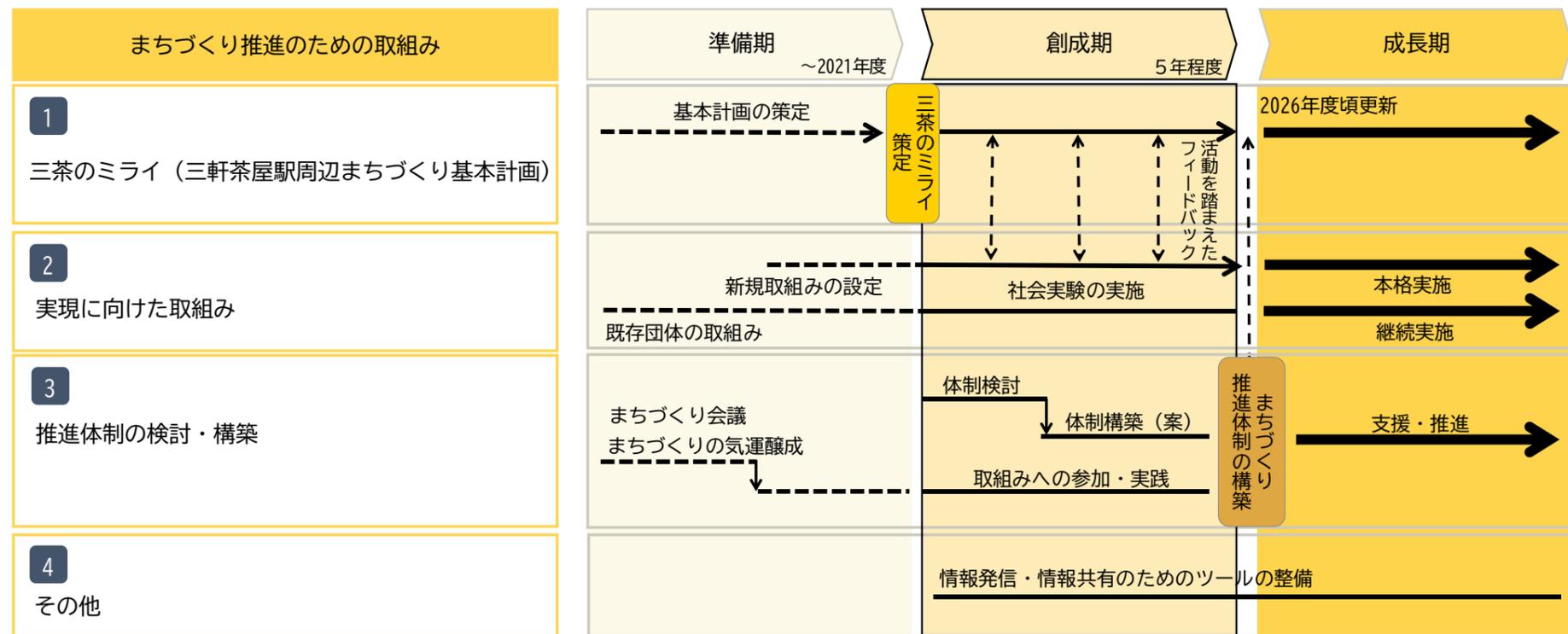


(2) ソフトとハードが一体となったまちづくり推進プロセス

まちづくり推進体制構築を進める中、担うべき役割や関係性は変化していくことから推進プロセスを整理しました。

創成期では、まちづくり会議を継続し、社会実験を中心とした多様な主体と連携した身近な活動などの9つの未来像実現のための取組みを推進し、まちづくりの気運と熟度を高めていきます。

成長期では、社会実験やみんなと連携した活動のフィードバックから、取組み内容を具体化し、その取組みを計画的に進めることにより「三茶のミライ」を実現していきます。



(別紙4)

三茶のミライ
(三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画)

案

令和3年(2021年)12月
世田谷区

目次

第1章 「三茶のミライ」策定の趣旨

1	策定の背景と目的	1
2	策定にあたって	3
3	対象区域	4
4	位置付け	5
5	三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針	6

第2章 「三茶のミライ」で描くまちの未来像 ～みんなの計画に～

1	「まちの未来像」の描き方	7
2	まちづくり会議とまちづくりシンポジウム	8
3	みんなの言葉から導き出したまちづくりのテーマ	11
4	みんなで思い描いた「9つの未来像」	11
5	基本方針の方針・方策と9つの未来像の繋がり	12

第3章 9つの未来像実現に向けて ～みんなで作る「まちの未来」～

1	9つの未来像と未来像実現のための取組みの体系	14
2	9つの未来像を実現したまちの姿	15
3	9つの未来像実現のための取組み	25
4	9つの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン	26
	(1) まちの空間デザインの考え方と整理方法	26
	(2) まちの空間デザインの大切な4つのポイント	28

第4章

今後の展望

～みんなの思いをまちづくりに～

- 1 ソフトとハードが一体となったまちづくりの推進 30
 - (1) 参加と協働による持続可能なまちづくり 30
 - (2) まちづくりを推進するための仕組みづくり 31
 - (3) まちづくりの担い手が育ち繋がる仕組みを支える組織について ... 32
- 2 9つの未来像実現のためのまちづくり推進体制 33
- 3 ソフトとハードが一体となったまちづくり推進プロセス 34

結びに

これからのまちづくりの可能性

～みんなと三茶のミライ～

用語解説

..... 43

※本文中の「*」については、43 ページ以降の用語解説をご参照ください。

第1章 「三茶のミライ」策定の趣旨

1 策定の背景と目的

三軒茶屋駅周辺は、下北沢駅周辺及び二子玉川駅周辺とともに、世田谷区都市整備方針において、商業・業務・文化などの機能が充実した、「広域生活・文化拠点」として位置づけられており、親しみやすく庶民的雰囲気をもつ拠点として、様々な要素がバランスよく共存していることから、訪れる面白さと住むための快適さを備えているまちです。都市の骨格となる幹線道路や鉄道などの基盤整備は、昭和39年に開催された東京オリンピック前後に行われ、近年では、平成8年に市街地再開発事業により、完成したキャロットタワーとともに地下道の整備や歩道拡幅整備、また、世田谷パブリックシアターも合わせて整備され、歩行者の交通利便性を高め、区内外からの人を集めています。それ以降、まちに大きな変化をもたらす大規模な改修や更新は行われておらず、公共的な空間の新たな創出や一部の老朽化した建築物の更新はされていません。そのため、まちの回遊性、滞在性、防災性の向上などには課題もあります。

こうした課題の解決には、まちを構成している道路や広場などの空間と商業施設や住宅などの個人や事業者などにより創出される空間、これら公共的な空間を一体的に捉えてデザインし、柔軟な活用に結びつけていく必要があります。そのためには、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多くの人々がソフトとハードが一体となったまちづくりへ参加し、まちの利活用の幅や可能性を広げていくことが不可欠です。

同じく広域生活・文化拠点に位置付けられている二子玉川駅周辺では、市街地再開発事業を契機とした都市再生推進法人*による官民連携のエリアマネジメント*が進められており、下北沢駅周辺では、小田急線連続立体交差事業を契機とした様々な事業が連携したまちづくりによって、ソフトとハードが一体となったまちづくりにも活発に取り組みが進められています。

三軒茶屋駅周辺では、これまでのまちづくり活動や課題を踏まえ、区内の他の拠点でのまちづくりや渋谷駅周辺の機能更新と再編などの変化を捉えながら、世田谷区の東の玄関口にふさわしい三軒茶屋駅周辺における、ソフトとハードが一体となった総合的なまちづくりに取り組み始めました。その第一歩として、区民・事業者・町会・商店街・大学・世田谷区などの多様な主体がビジョンを共有し、連携してまちづくりを進めるため、都市整備方針など、既存の計画や地域の特徴・歴史を踏まえながら、「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針（以下、「基本方針」という。）」を平成31年3月に策定しました。

基本方針では、まちのビジョンに「進化し続ける交流のまち『三茶 Crossing』」を掲げています。これには、まちの象徴でもあり歴史的な追分けでもある三軒茶屋交差点や、「人と人が交流する」「道路や鉄道が交差する」「地上のまちと地下鉄が交差

する」「様々な機能を掛けあわせる」などの意味を込めています。

このまちのビジョンを実現するためには、まちの未来の姿を思い描きながら、身近な困りごとの解決など、できることから始めて、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体である「みんな」で、まちの未来像実現のための取組みを着実に積み上げていかなければなりません。また、それぞれの役割に応じた「まちづくりの担い手」として、相互に連携していく必要があります。

「三茶のミライ（三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画）（以下、「三茶のミライ」という。）」は、みんなで「まちの未来像」を描き、「まちの未来像実現のための取組み」を共有し、相互連携によるソフトとハードが一体となったまちづくりの進め方を明らかにすることを目的に策定しました。

◎ なぜ「三茶のミライ」？

「三茶のミライ」という名前は、この計画を誰でも親しみやすく気軽に手に取ってもらえるように、「三茶」という気さくさと、カタカナの「ミライ」が出すポップさと柔らかさを掛け合わせて命名しました。

◎ 「みんな」とは？

区民・事業者・町会・商店街・大学・世田谷区など三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体と定義しています。ソフトとハードが一体となった総合的なまちづくりを進めていくために、共に理解し合い、知恵を出し合いながら「みんな」で協働することが重要です。



2 策定にあたって

「三茶のミライ」の策定にあたっては、調査・検討を進めながら地域の方々や三軒茶屋駅周辺で活動するの方々をはじめ、専門的な知見を持つ有識者及び事業者など、多様な立場からの意見を踏まえることが重要です。

世田谷区では、学識経験者や地元有識者などで構成する「三軒茶屋駅周辺まちづくり検討委員会（以下、「まちづくり検討委員会」という。）」を設置し、まちづくり推進のために専門的かつ幅広く「三茶のミライ」の検討及び調査を行うとともに、多様な主体が参加する「三軒茶屋駅周辺まちづくり会議（以下、「まちづくり会議」という。）」の開催を重ねてきました。また、まちづくりを推進していくための「三軒茶屋駅周辺まちづくりシンポジウム（以下、「まちづくりシンポジウム」という。）」を開催し、「三茶のミライ」を検討していくための様々な意見を出し合い、まちづくりにおける気運を醸成しました。

また、地球温暖化に伴う気候変動や新型コロナウイルス感染症の拡大などによる社会動向に対応したまちづくりとして、職住融合*、歩いて暮らせるまち、ゆとりあるオープンスペース*へのニーズなどが高まっており、三軒茶屋駅周辺の地区の特性に応じた多様なみどりづくりとともに、都市の持つ集積のメリットを活かしながら、まちづくり活動を検討していかなければなりません。

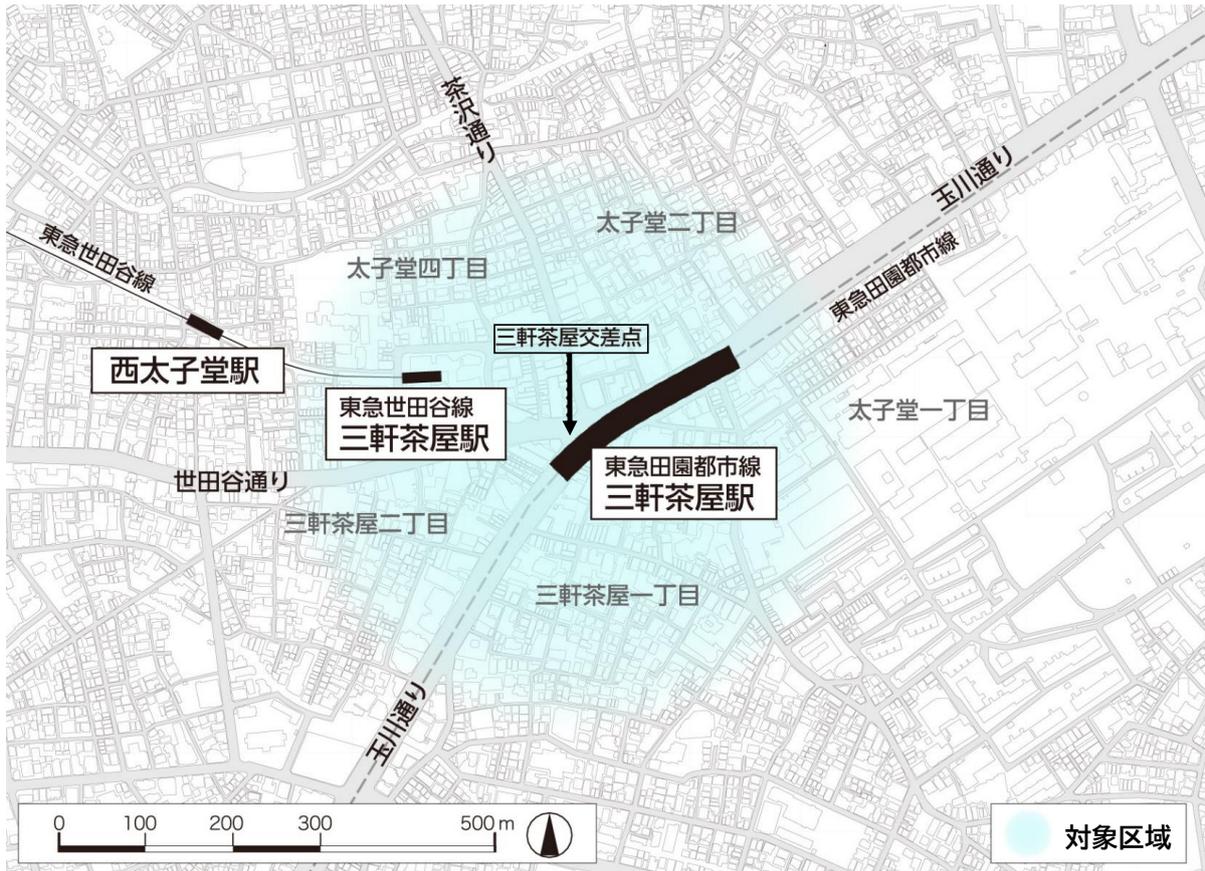
「三茶のミライ」は、まちの主役であるみんなとともに、持続可能なまちづくりを進めながら社会情勢の変化を捉え、まちの未来像実現のための取組みなどを柔軟に追加し、常に進化し続けていきます。



3 対象区域

「三茶のミライ」の対象区域は、基本方針と同様、三軒茶屋交差点を中心とした概ね半径 300m 以内の区域とします。

対象区域図



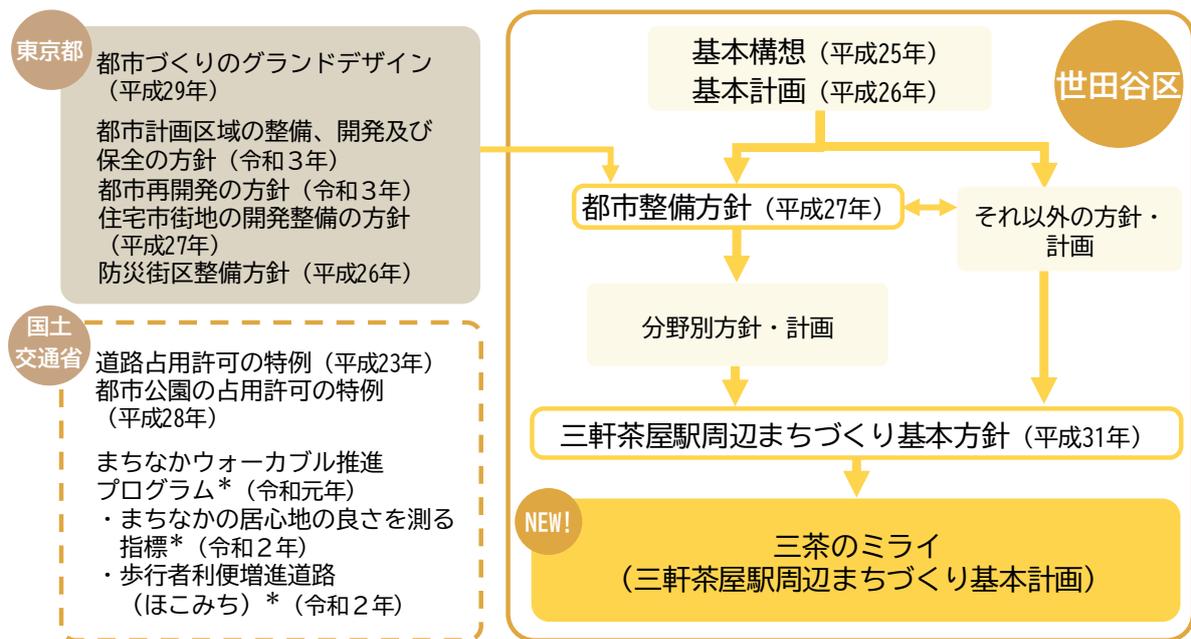
4 位置づけ

「三茶のミライ」は、基本方針に示すまちのビジョン「進化し続ける交流のまち『三茶 Crossing』」の実現に向けて、様々な分野が横断的に包括され、多様な主体が連携したまちづくりの取組みを行うための「みんなの計画」であるということの基本理念とし、「まちの未来像」「まちの未来像実現のための取組み」「まちの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン」「まちづくり推進プロセス」を示すものです。

今後、「三茶のミライ」を基に、ソフトとハードが一体となったまちづくりの具体化につながる社会実験の実施とともに、まちづくり会議などにおける情報共有や検討を積み重ね、まちづくりの気運と熟度を高め、推進体制を構築します。

さらに、こうしたまちづくりの活動のフィードバックから、まちの空間利活用などソフト面の取組みと、基盤施設整備などハード面の取組みにつなげ具体化し、その取組みを計画的に進めることにより、「三茶のミライ」を実現していきます。

上位計画と「三茶のミライ」の関係

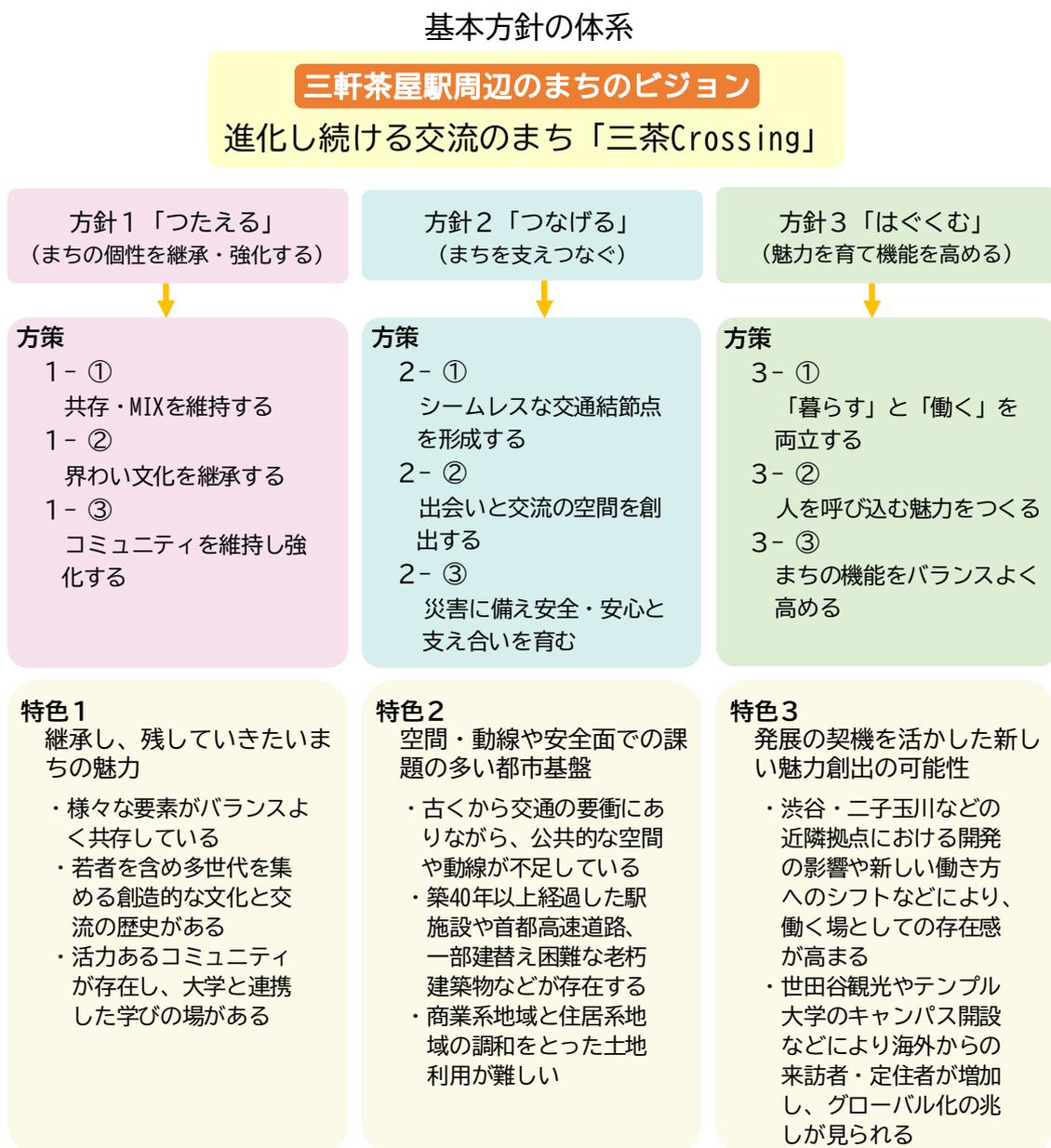


5 三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針

基本方針は、三軒茶屋駅周辺のまちづくり方針を示し、将来的には具体的な事業の誘導に向けた方針・計画を策定するためのガイドラインとして、平成31年3月に策定しました。

この基本方針の中で、三軒茶屋駅周辺のまちの特色として「継承し、残していきたいまちの魅力」、「空間・動線や安全面での課題の多い都市基盤」、「発展の契機を活かした新しい魅力創出の可能性」を挙げています。

そのうえで、まちのビジョン実現に向けて、「つたえる」、「つなげる」、「はぐくむ」という3つの方針及び3つの方針に基づいて9つの方策を示しています。



第2章

「三茶のミライ」で描くまちの未来像 ～みんなの計画に～

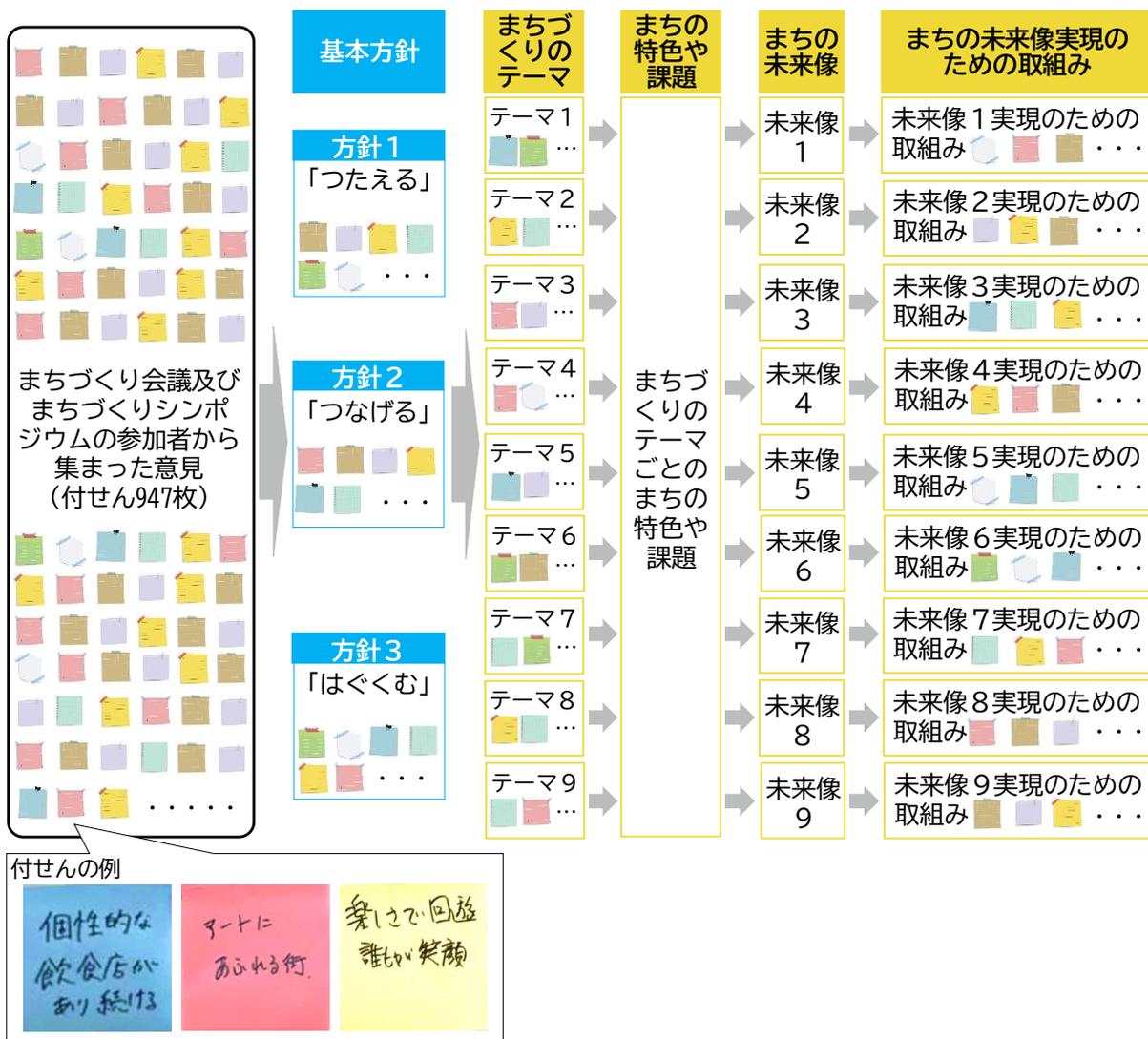
1 「まちの未来像」の描き方

「三茶のミライ」では、基本方針を基に、「みんなの計画」として検討を進めていくために、まちづくり会議とまちづくりシンポジウムの参加者が、合計947枚の付せんによる生の意見を出し合いました。この意見をまちづくりのテーマとして整理・分類し、まちづくり検討委員会などでの検討を経て、さらにテーマごとにまちの特色や課題を整理しました。また、検討状況をまちづくり会議で共有し、参加者の意見を大切にしながら、まちの未来像を描き、まちの未来像実現のための取組みを導き出しました。

第2章

「三茶のミライ」で描くまちの未来像 ～みんなの計画に～

「まちの未来像」の描き方



2 まちづくり会議とまちづくりシンポジウム

基本方針の3つの方針を基に、まちの未来像をみんなで思い描くために、まちづくり会議やまちづくりシンポジウムを通じて「まちの魅力・課題」や「理想のまちの未来像」、「取組み（アイデア）」に関して、様々な意見を出し合い、共有しました。

まちづくり会議とまちづくりシンポジウム概要

会議名など	概要
<p>第1回まちづくり会議 (2019年10月)</p> 	<p>【テーマ】 あなたが知っている三茶の魅力をみんなにシェアしよう</p> <p>【ワーク①】 ・「三茶のいいね」を共有しよう</p> <p>【ワーク②】 ・「三茶の魅力再発見マップ」をつくろう</p> <p>【三茶の魅力に関する意見】 ・都心部へのアクセス性や立地の良さ ・日常生活における買い物のしやすさ ・個性的な店舗や魅力的な飲食店 など</p>
<p>第2回まちづくり会議 (2019年11月)</p> 	<p>【テーマ】 「イマ」を「ミライ」に近づけるアクションを考えよう！</p> <p>【ワーク①】 ・三茶の「ミライ」を思い描こう</p> <p>【ワーク②】 ・「ミライ」へ向けたアクションを考えよう</p> <p>【理想のまちの未来像に関する意見】 ・個性豊かなお店のあるまち ・三茶文化を活かす育むまち ・人々が交流できるまち ・職住近接のあるまち ・散歩しやすいまち ・安心・安全な三茶 など</p> <p>【取組み（アイデア）に関する意見】 ・公共空間及び空き家の活用 ・魅力的なイベント開催や名物づくり ・規制緩和や強化、基盤整備 ・他者との連携・自らがやれることをやる ・まちづくり組織の設立 など</p>

会議名など	概要
<p>まちづくりシンポジウム (2019年12月)</p> 	<p>【基調講演】 メディアの視点から見た“三茶”のまちの魅力と課題 (株式会社マガジンハウス コロカル編集長 及川卓也氏)</p> <p>【三軒茶屋のまちづくり】 ・基本方針やまちづくり会議の報告</p> <p>【トークセッション】 ・学識経験者や地元有識者及びまちづくり活動者などの7名によるパネルディスカッション</p> <p>【トークテーマ】 ・地域デビューのきっかけづくり ・文化発信 ・世田谷区の東の玄関口としての多様性と安全確保 ・交通結節点らしい公共交通の乗降機能の整備 など</p>
<p>第3回まちづくり会議 (2021年1月)</p>  <p>(オンライン)</p>	<p>【テーマ】 “三茶”でのまちづくりを推進する担い手と一緒にまちのミライを考える</p> <p>【プログラム①】 ・三茶のミライの検討状況</p> <p>【プログラム②】 ・まちづくりの活動者による活動紹介・意見交換</p> <p>【プログラム③】 ・今後に向けて</p> <p>【まちの未来像に繋がるアイデアに関する意見】 ・屋外空間の有効活用(ストリートファニチャー*の設置、飲食店のテイクアウト出店、路上ライブ、こどもの遊び場づくりなど) ・回遊性向上(歩道拡幅、シェアドスペース*化、時間指定のレーンマネジメント*など) ・仮設物を用いた小規模なまちの居場所づくり ・まちの歴史の広報 など</p>

会議名など	概要
<p>第4回まちづくり会議 (2021年9月)</p>   <p>(オンライン)</p>	<p>【まちづくり検討委員会 委員長メッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民の主体的なまちづくりについて (東京都市大学 都市生活学部都市生活学科教授 坂井文氏) <p>【三茶のミライ (素案) の報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三茶のミライ(三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画)(素案)の報告 <p>【トークセッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三軒茶屋駅周辺において、まちづくり活動を実施している学識経験者や地元有識者及びまちづくり活動者などの5名によるトークセッション <p>【トークテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三茶のミライ」策定の感想 ・三茶での参加と協働による持続可能なまちづくりを広げていくには <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者から意見・質問・アイデアをいただき、主に商業、くつろぎ、防災、地域参加などのテーマについて意見交換

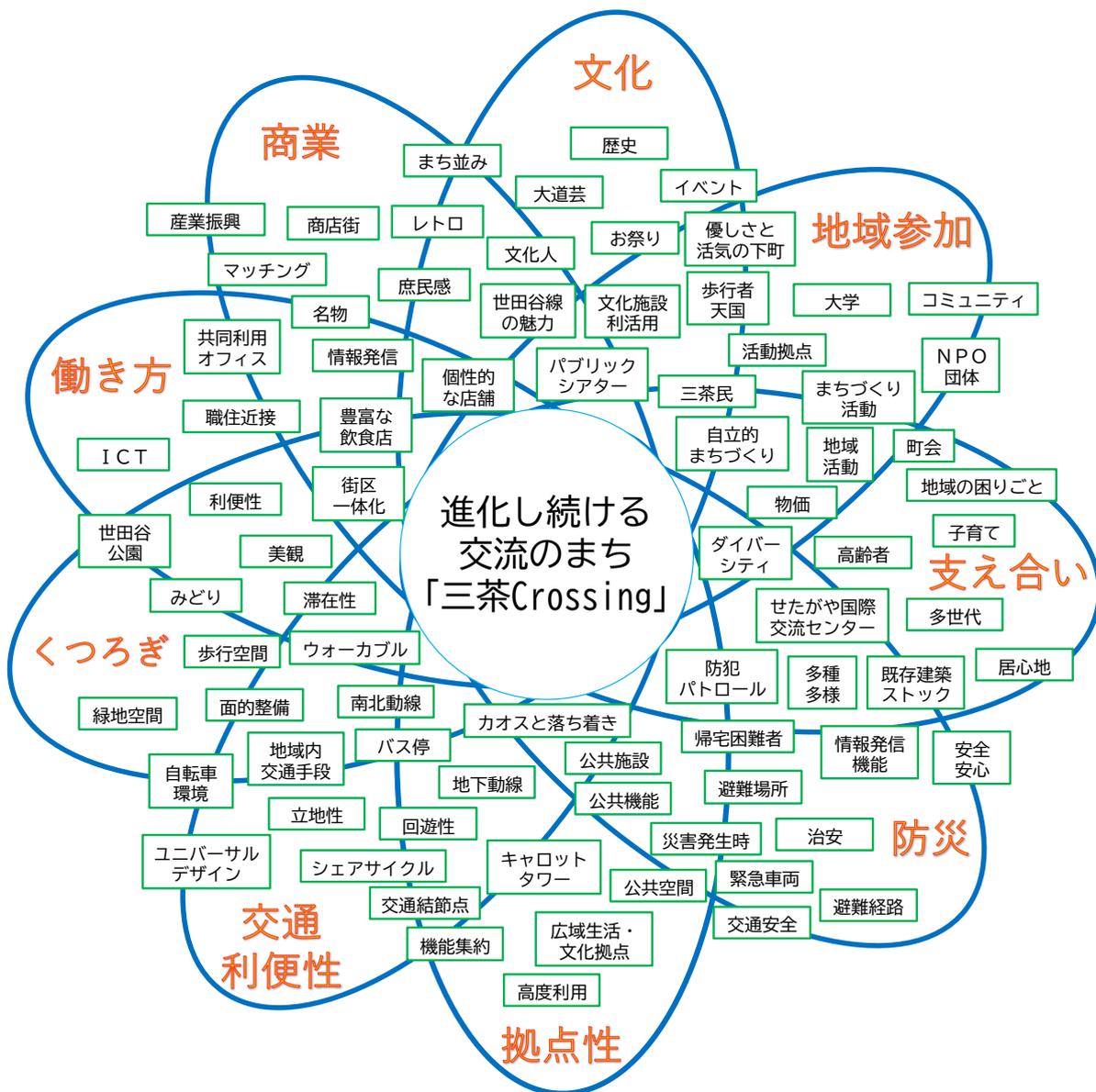
◎ まちづくりの可能性について

これからのまちづくりの可能性について、まちづくり会議で挙げられた意見やまちづくりシンポジウムのトークテーマに沿って、『まちづくり検討委員会の委員からメッセージ』をいただきました。35ページからの「結びに」をご覧ください。

3 みんなの言葉から導き出したまちづくりのテーマ

まちづくり会議やまちづくりシンポジウムで共有したみんなの言葉は、日常生活で感じられるものや都市経営の視点など、実に多種多様です。この言葉を基に、まちづくり検討委員会からの専門的な視点による意見や助言も踏まえながら、9つのまちづくりのテーマを導き出しました。

みんなの言葉から導き出したまちづくりのテーマ



4 みんなで思い描いた「9つの未来像」

まちづくり会議でみんなで出し合った意見は、三軒茶屋駅周辺のまちを表現する言葉であることから、まちの特色や課題を読み取ることができます。このまちの特色や課題をまちづくりのテーマごとに整理し、9つの未来像を描きました。

9つの未来像

まちづくりのテーマごとの まちの特色や課題		9つの未来像
文化	<ul style="list-style-type: none"> パブリックシアターや大道芸などの創造的な文化や芸術、江戸期から交通の要衝として栄えてきた歴史がある 多様な人々が日常的に文化芸術に親しむ機会の創出が必要である 三軒茶屋の歴史、文化施設など多様な文化インフラの活用や文化活動を通じた人と人を繋ぐ仕組みが必要である 	1 歴史を継承しアートを生み出すまち
商業	<ul style="list-style-type: none"> にぎわいのある商店街や若者に人気が高い店舗など、人を惹きつける商業がある 商店街や個性的な店舗などの魅力の継続・創出が必要である 三茶の魅力を生かしたまちなか観光の活動・取組みが必要である 	2 個性豊かな店が通りを彩るまち
働き方	<ul style="list-style-type: none"> 新しい働く場が生まれ始めている 働く選択肢を増やす機能を創出する企業が必要である 	3 暮らしの近くに「働く」があるまち
くつろぎ	<ul style="list-style-type: none"> 世田谷公園、烏山川緑道などの緑地が点在している 様々な空間への緑の創出が必要である 美化活動のルールづくりや活動が必要である 	4 くつろぎの空間が育まれるまち
交通 利便性	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道、バスなど交通の便がよく、交通の結節点となっている 公共的な空間や動線の創出と活用が必要である 	5 誰でも気軽に出かけられるまち
拠点性	<ul style="list-style-type: none"> まちのシンボルが多様な人を引きつけている まちの持続可能性とまちの個性の共存が必要である 	6 拠点性を生かして人々の活動を支えるまち
防災	<ul style="list-style-type: none"> 夜も明るく治安がよい 平時からの防災、安全対策の促進が必要である 	7 災害に強く、安全・安心のあるまち
支え 合い	<ul style="list-style-type: none"> 様々な要素がバランスよく共存しており、訪れる面白さと住むための快適さを備えている 多様な人が暮らし続けられる住まい方の創出が必要である 	8 暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち
地域 参加	<ul style="list-style-type: none"> 商店街、町会・自治体、まちづくり協議会、近隣大学など地域による活力あるコミュニティが存在している まちづくりに参加できる機会・場の創出、継続的なまちづくり活動の促進が必要である 	9 誰もがまちづくりに関われるまち

5 基本方針の方針・方策と9つの未来像の繋がり

基本方針で示した方針・方策と9つの未来像は、交わるように関係しているため、繋がりを見視化しました。

方針・方策と9つの未来像の主な繋がり

基本方針		三茶のミライ								
方針	方策	9つの未来像								
		1 歴史を継承し アートを生み 出すまち	2 個性豊かな 店が通りを 彩るまち	3 暮らしの 近くに「働く」 があるまち	4 くつろぎの 空間が育まれる まち	5 誰でも気軽 に出られる まち	6 拠点性を 生かして人々の 活動を支える まち	7 災害に強く、 安全・安心のある まち	8 暮らしを通して 様々な関係性が 生まれるまち	9 誰もがまちづくり に関わるまち
1 つたえる	1-① 共存・MIXを維持する		○	○					○	
	1-② 界わい文化を継承する	○	○							
	1-③ コミュニティを維持強化する	○			○		○	○	○	○
2 つなげる	2-① シームレスな交通結節点を形成する					○				
	2-② 出会いと交流の空間を創出する	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2-③ 災害に備え安全・安心と支え合いを育む							○		○
3 はぐくむ	3-① 「暮らす」と「働く」を両立する			○					○	○
	3-② 人を呼び込む魅力をつくる	○	○					○		
	3-③ まちの機能をバランスよく高める			○	○			○		

※繋がり深いと考えられるものを「○」としています。
なお、「○」がないものについても、全て繋がりがあります。

第3章

9つの未来像実現に向けて ～みんなで作る「まちの未来」～

1 9つの未来像と未来像実現のための取組みの体系

基本方針で示したまちのビジョン、方針・方策及び「三茶のミライ」で描いた、まちづくりのテーマ、9つの未来像、この未来像を実現したまちの姿、未来像実現のための取組みを体系的に整理しました。

9つの未来像と未来像実現のための取組みの体系



2 9つの未来像を実現したまちの姿

より多くの人々が三軒茶屋駅周辺まちづくりに興味を持ち、さらに次の行動を起こすきっかけとなるよう、イラストを交えながら9つの未来像を実現したまちの姿を描きました。



1 歴史を継承し アートを 生み出すまち

取組み  アイデア 

住む人  学ぶ人  土地建物を持つ人 
 働く人  支援する組織  行政 

次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、その魅力が世界中に発信されている。文化創造や活動参加の機会を増やし、作り手が集う場所が用意されて新たなアートや文化が育まれ、まち全体がアートや文化であふれている。

第3章

9つの未来像実現に向けて「みんなで作る」まちの未来

文化施設などの文化インフラを積極的に活用し、人と人を繋ぐ仕組み構築



芸術創造や活動への幅広く多様な参加の推進と制度的支援

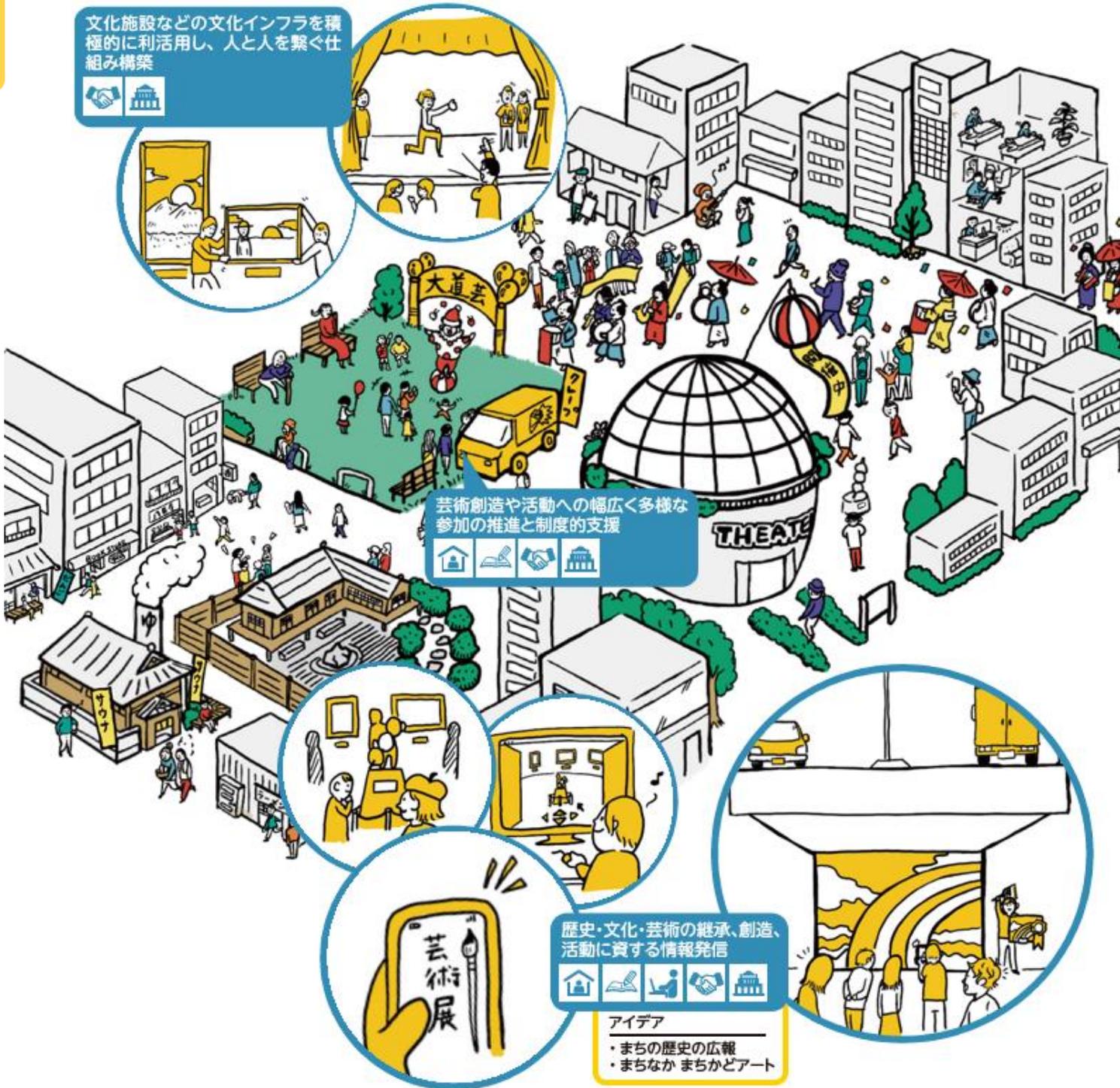


歴史・文化・芸術の継承、創造、活動に資する情報発信



アイデア

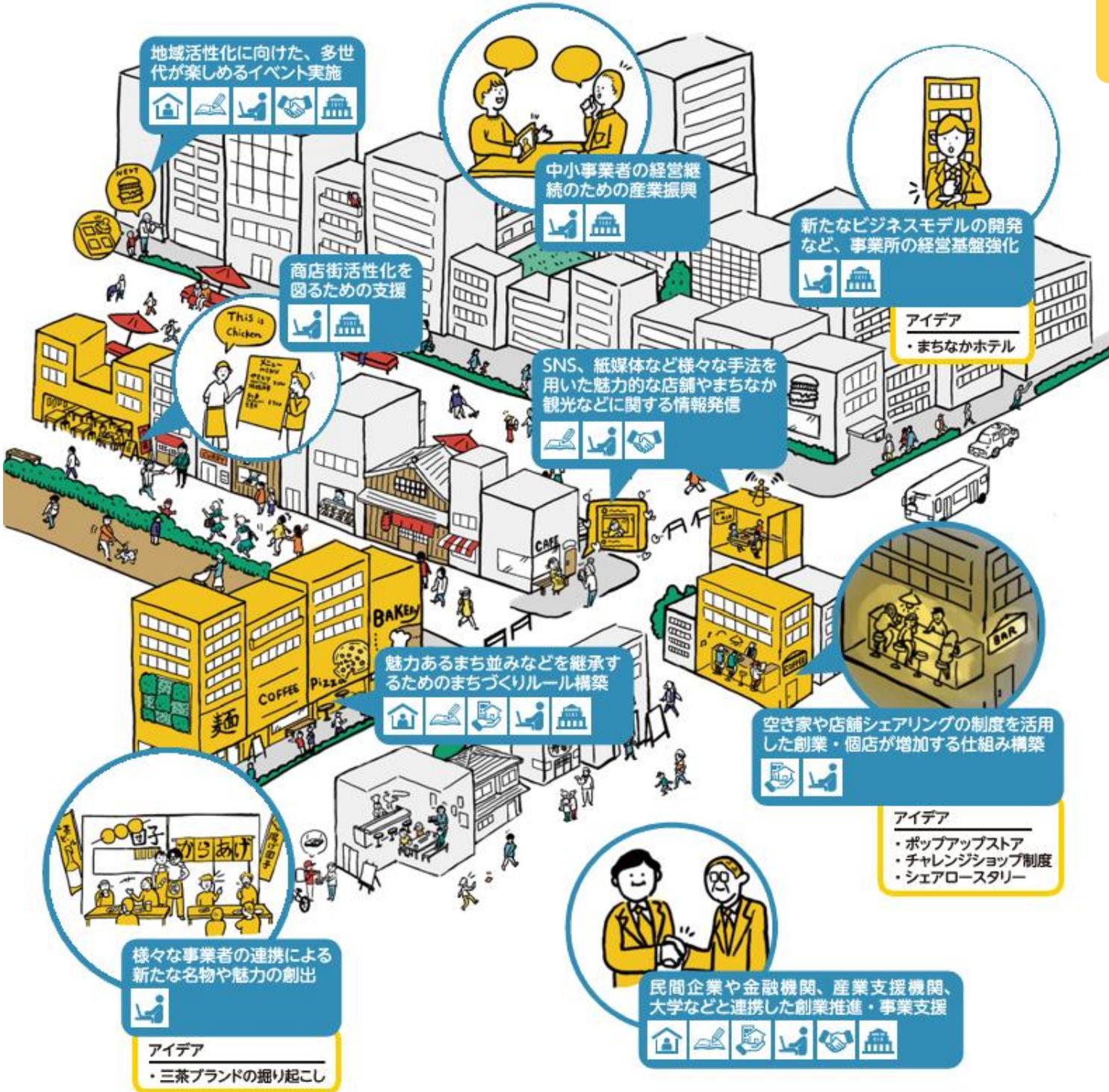
- ・まちの歴史の広報
- ・まちなか まちかどアート



2 個性豊かな店が 通りを彩るまち



個性豊かな店舗が通りを彩り、界わい性を育んでいる。
様々な事業者や商店などが連携することによって新たな魅力を生み、まちの活気が継続している。



第3章

9つの未来像実現に向けて「みんなでつくる」まちの未来

3 暮らしの近くに「働く」があるまち

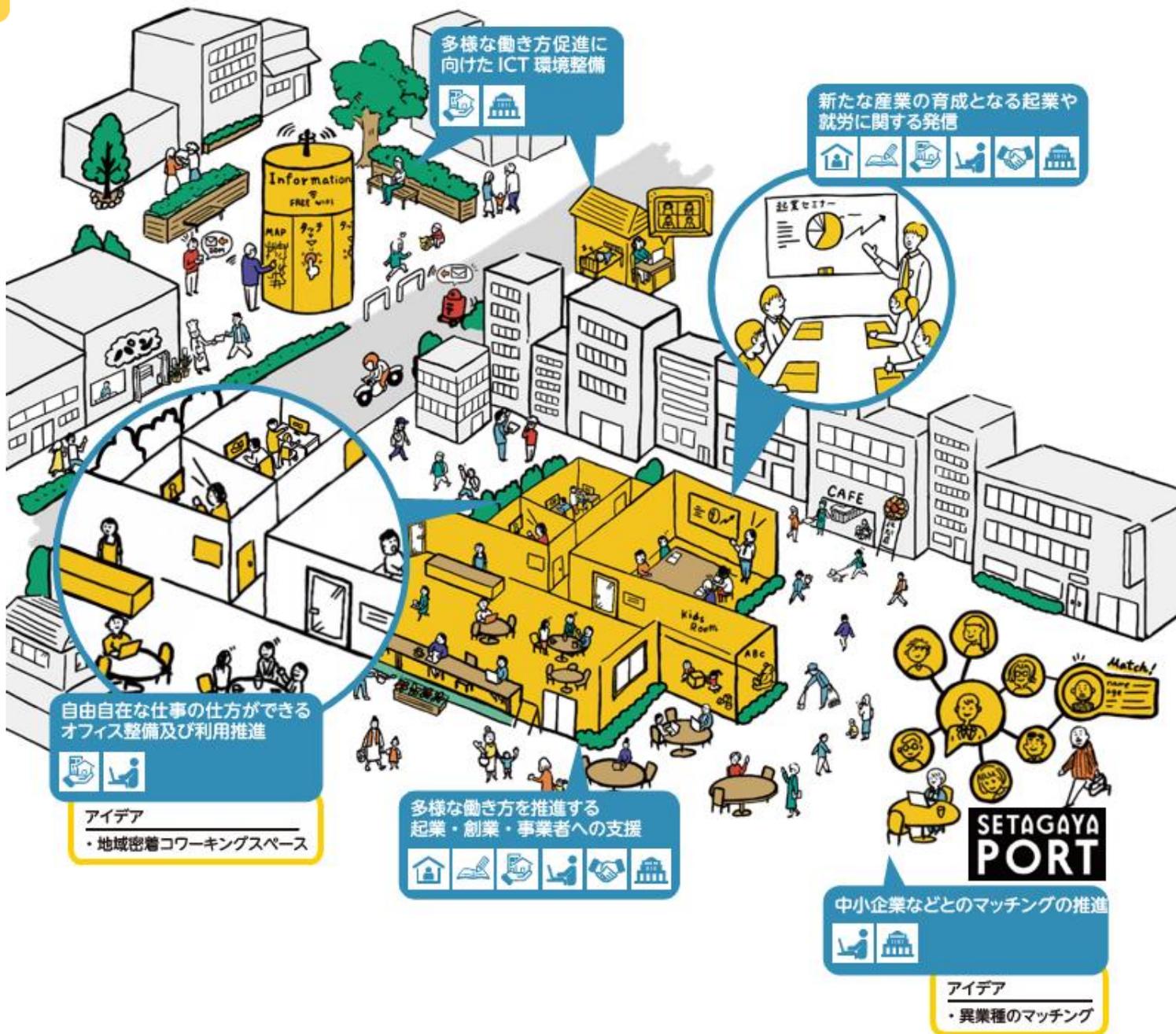
取組み  アイデア 

取り組む 主体	 住む人	 学ぶ人	 土地建物を持つ人
	 働く人	 支援する組織	 行政

暮らしの近くで様々な働き方ができる環境があり、そうした場所に人が集まり、活気づいている。起業・創業への後押しが、人々を呼び込み、新たなチャンスが生まれている。

第3章

9つの未来像実現に向けて「みんなでつくる」まちの未来

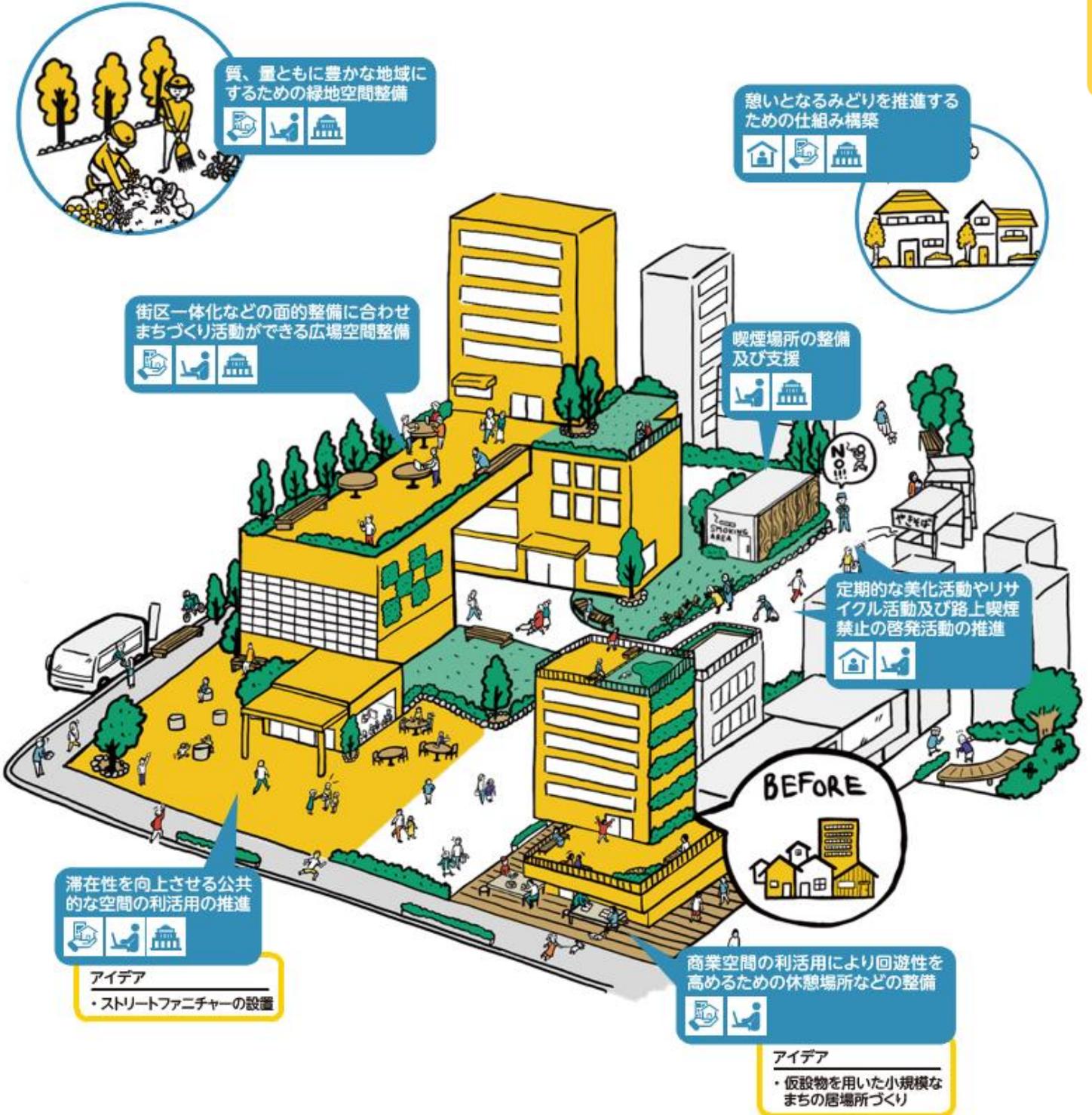


4 くつろぎの空間が育まれるまち

取組み アイデア

- 取り組む主体
- 住む人
 - 学ぶ人
 - 土地建物を持つ人
 - 働く人
 - 支援する組織
 - 行政

まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人とまちを繋いでいる。駅周辺は清潔感にあふれ、まち並みとみどりが調和した良好な環境が、人々の愛着心を育てている。



取組み  アイデア 

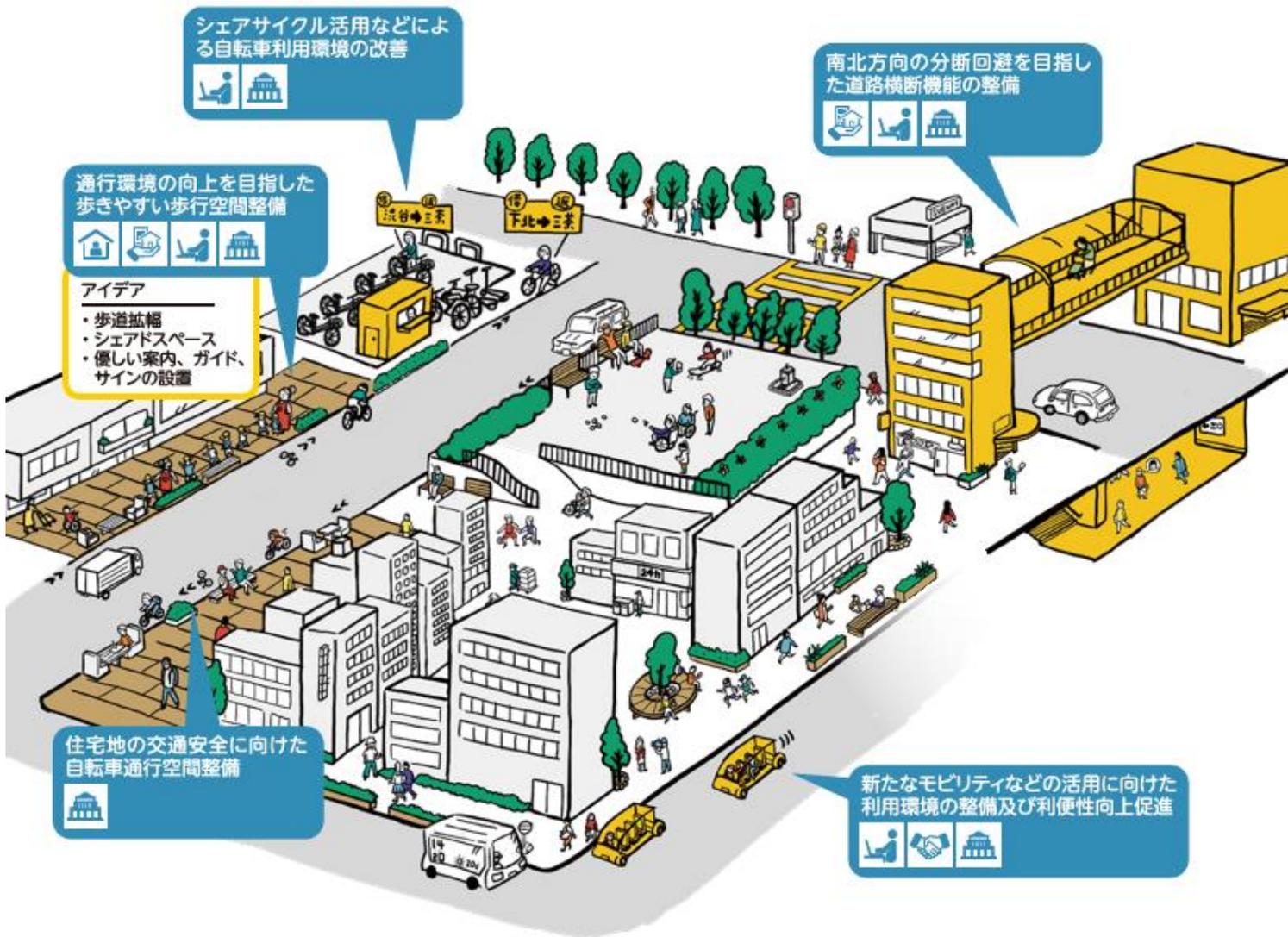
取り組む主体  住民  学ぶ人  土地建物を持つ人
 働く人  支援する組織  行政

5 誰でも気軽に 出かけられるまち

地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できるなど、誰もが行きたいところに安心して移動ができ、まち全体が繋がっている。環境負荷の低い公共交通や自転車、新たなモビリティなどの様々な移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている。

第3章

9つの未来像実現に向けて「みんなでつくる」まちの未来



6 拠点性を生かして 人々の活動を 支えるまち



古くからの街道の分岐点であることや公共交通が充実している利便性を活かし、公共サービスを始めとした拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている。

市街地の再構築として高度利用などによる魅力ある拠点の創出と商業・業務・滞在施設など機能の集積



公共施設機能の複合化、多機能化



交通利便性向上を目指した公共交通などの乗換え機能の集約



公共施設及び公共的空間の活用推進に向けた仕組み構築



アイデア

- ・路上ライブ
- ・子どもの遊び場づくり
- ・時間指定レーンマネジメント

地下空間における魅力ある広場などの創出





7

災害に強く、安全・安心のあるまち

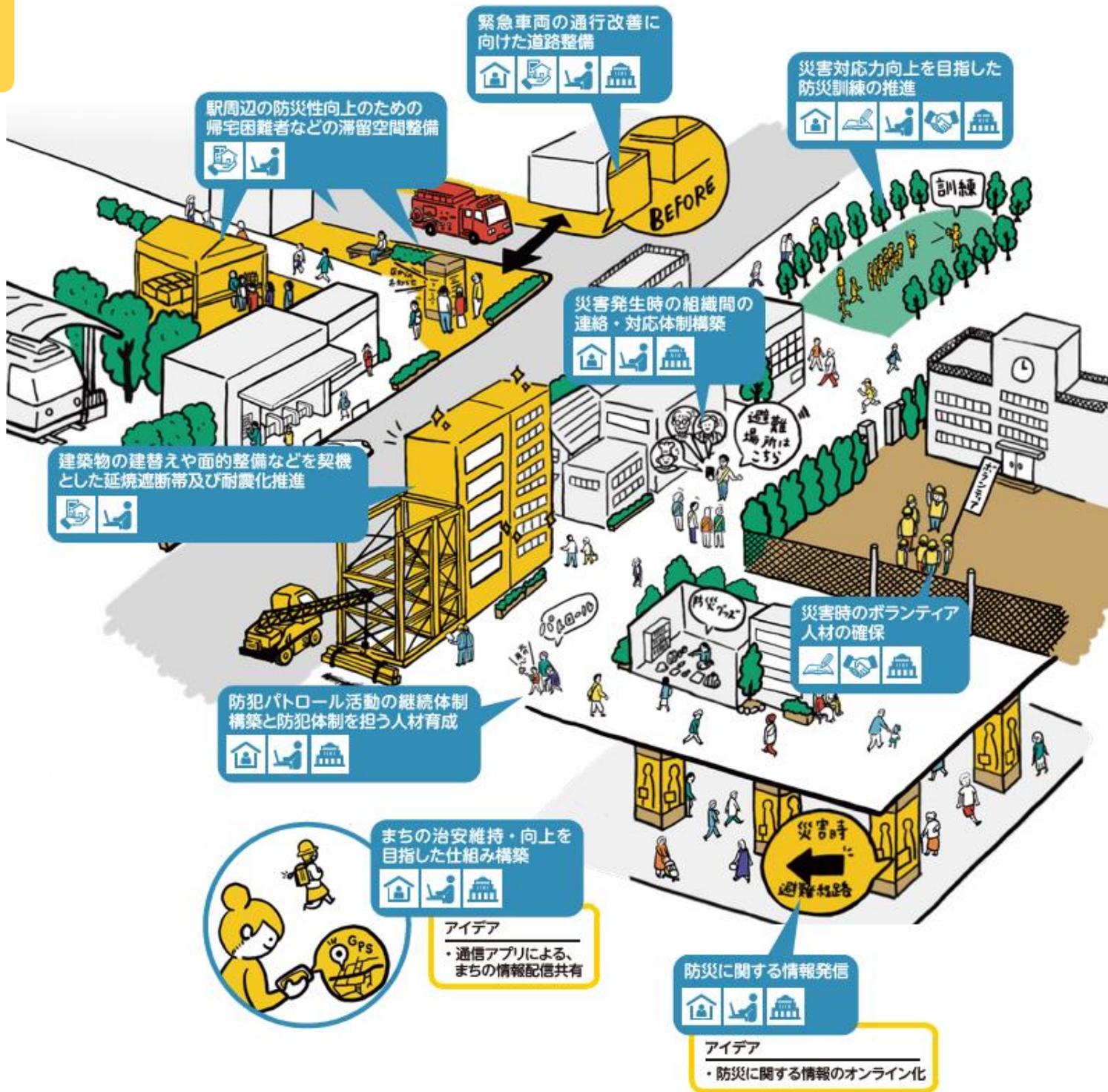
取組み アイデア

取り組む主体	住む人	学ぶ人	土地建物を持つ人
	働く人	支援する組織	行政

まちに関わる人々が連携できる、共助による防災、防犯及び緊急時に対する体制が整っている。建物の不燃化・耐震化・防災空間の充実などにより、防災性が向上している。

第3章

9つの未来像実現に向けて「みんなで作る」まちの未来



8

暮らしを通して 様々な関係性が 生まれるまち



多様な暮らしが重なり合う中で、助け・支え合い、相互理解を深めながら、お互いを尊重し合う関係性が生まれている。こうした包容力が地域内外でのさらなる交流を生み出している。



第3章

9つの未来像実現に向けて「みんなで作る」まちの未来

9 誰もがまちづくりに 関われるまち

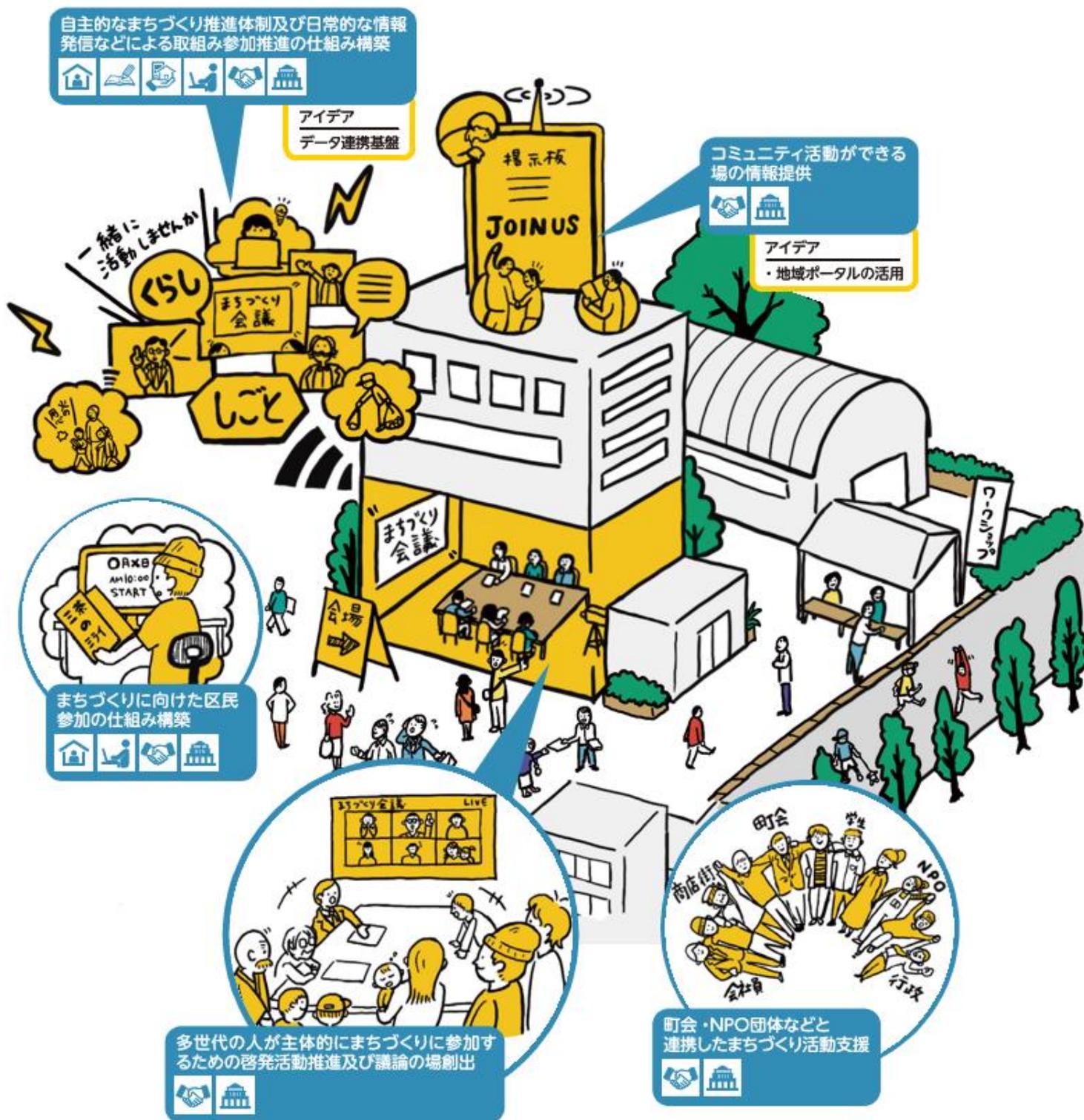
取組み アイデア

- 住む人
- 学ぶ人
- 土地建物を持つ人
- 働く人
- 支援する組織
- 行政

まちに関わる人々が主体的にまちづくりに参加し、まちを育てていける仕組みがあり、始める・支える・賛同するなど、様々な形でまちづくりに関われる機会が設けられ情報が共有されている。

第3章

9つの未来像実現に向けて「みんなで作る「まちの未来」」



3 9つの未来像実現のための取組み

9つの未来像実現のためには、一つひとつの取組みをできることから始めて、積み上げていくことが大切です。

まちづくり会議とまちづくりシンポジウムでの意見を基に、基本方針の取組みの例示なども踏まえ、今後実施検討していく9つの未来像実現のための取組みとして設定しました。また、取り組む主体（期待できる主体や既の実施している主体）及び新しい取組みに繋げたいアイデアなどを整理しました。

さらに、これらを基に、社会実験の実施やまちづくり会議で検討しながら、取り組む主体や実施する時期などを具体化していきます。また、既存のまちづくり活動の拡張、新たな主体の参加、社会情勢を捉えながら9つの未来像実現のための取組みを増やしていき、まちづくりを推進していきます。

9つの未来像実現のための取組みの項目と内容

項目	内容	掲載場所
9つの未来像実現のための取組み	「三茶のミライ」が「みんなの計画」であるという基本理念に基づき、まちづくり会議などで共有した幅広い意見をまちづくり検討委員会などの視点を踏まえながら整理しました。	16～24ページ 取組み
新しい取組みに繋げたいアイデア	新しい取組みに繋げたいと考えているアイデアを、まちづくり会議などでの意見から整理しました。	16～24ページ アイデア
取り組む主体 (期待できる主体、既の実施している主体)	<ul style="list-style-type: none"> ・住む人：主に対象区域に住む区民や町会などの区民組織 ・学ぶ人：主に勉学のために対象区域を訪れる人 ・土地建物：居住地を問わず、主に対象区域内で土地や建物を持つ人を所有する個人や組織など ・働く人：対象区域内で働く個人事業主、法人など ・支援する：対象区域内のまちづくり活動を支える団体など組織 ・行政：世田谷区、東京都、国土交通省など <p>※取組みにあたっては、道路管理者や交通管理者、関連する事業者などの多様な主体と連携を図っていきます。</p>	16～24ページ  住む人  学ぶ人  土地建物を持つ人  働く人  支援する組織  行政

4 9つの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン

(1) まちの空間デザインの考え方と整理方法

三軒茶屋駅周辺のまちのビジョン実現に向け、9つの未来像及び未来像を実現したまちの姿を描き、その未来像実現のための取組みをまちづくり会議で共有しました。

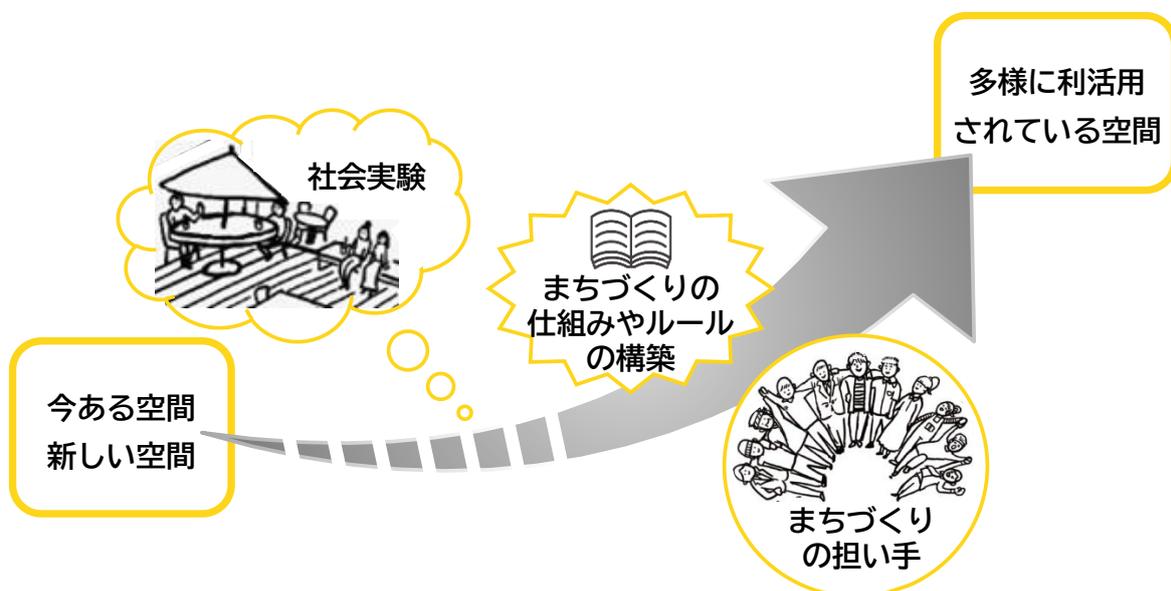
共有した取組みには、イベントの実施やパブリックスペースを活用した地域活動など、今ある空間の利活用によりすぐに始められるものがある一方、歩きやすい歩行空間や地下空間における魅力ある広場の整備など、基本方針で示した都市基盤に関する新しい空間を創出するものもあります。これらを推進するためには、多様な主体同士が連携し、具体化していくことが必要です。

そこで、より多くのまちづくりの担い手が、次の行動を起こすきっかけとなるよう、今ある空間の多様な利活用や新たな空間の創出及びその利活用、さらにまちづくりの仕組みやルールを一体的に捉え、「まちの空間デザイン」としてまとめました。

まちの空間デザインは、9つの未来像実現のための取組みから抽出した「まちの空間デザインに関する取組み」と、基本方針で示す「機能イメージ」及び「基盤整備イメージ」を基に4つのポイントに整理しました。また、この4つのポイントを踏まえ、利活用が期待できる場所や空間創出を目指す場所を、ポイントイメージ図において表現しました。

今後、まちの空間デザインに関する取組みについて、社会実験などを実施することで具体化し、これを繰り返し、一つひとつの取組みが繋がり加速し、また、新たな取組みも加わり、みんなが連携した社会実装に繋げていきます。

まちの空間デザイン



9つの未来像におけるまちの空間デザインに関する取組み

9つの未来像		未来像を実現したまちの姿	まちの空間デザインに関する取組み
未来像1	歴史を継承しアートを生み出すまち	次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、その魅力が世界中に発信されている。文化創造や活動参加の機会を増やし、作り手が集う場所が用意されて新たなアートや文化が生まれ、まち全体がアートや文化であふれている。	<ul style="list-style-type: none"> 芸術創造や活動への幅広く多様な参加の推進と制度的支援 文化施設などの文化インフラを積極的に利活用し、人と人を繋ぐ仕組み構築
未来像2	個性豊かな店が通りを彩るまち	個性豊かな店舗が通りを彩り、界わい性を育んでいる。様々な事業者や商店などが連携することによって新たな魅力を生み、まちの活気が継続している。	<ul style="list-style-type: none"> 魅力あるまち並みなどを継承するためのまちづくりルール構築 地域活性化に向けた、多世代が楽しめるイベント実施
未来像3	暮らしの近くに「働く」があるまち	暮らしの近くで様々な働き方ができる環境があり、そうした場所に人が集まり、活気づいている。起業・創業への後押しが、人々を呼び込み、新たなチャンスが生まれている。	<ul style="list-style-type: none"> 自由自在な仕事の仕方ができるオフィス整備及び利用推進
未来像4	くつろぎの空間が育まれるまち	まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人とまちを繋いでいる。駅周辺は清潔感にあふれ、まち並みとみどりが調和した良好な環境が、人々の愛着心を育んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 街区一体化などの面的整備に合わせ、まちづくり活動ができる広場空間整備 質、量ともに豊かな地域にするための緑地空間整備
未来像5	誰でも気軽に出かけられるまち	地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できるなど、誰もが行きたいところに安心して移動ができ、まち全体が繋がっている。環境負荷の低い公共交通や自転車、新たなモビリティなどの様々な移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 通行環境の向上を目指した歩きやすい歩行空間整備 南北方向の分断回避を目指した道路横断機能の整備
未来像6	拠点性を生かして人々の活動を支えるまち	古くからの街道の分岐点であることや公共交通が充実している利便性を活かし、公共サービスを始めとした拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている。	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の再構築として高度利用などによる魅力ある拠点の創出と商業・業務・滞在施設など機能の集積 地下空間における魅力ある広場などの創出
未来像7	災害に強く、安全・安心のあるまち	まちに関わる人々が連携できる、共助による防災、防犯及び緊急時に対する体制が整っている。建物の不燃化・耐震化・防災空間の充実などにより、防災性が向上している。	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の建替えや面的整備などを契機とした延焼遮断帯及び耐震化推進 駅周辺の防災性向上のための帰宅困難者などの滞留空間整備
未来像8	暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち	多様な暮らしが重なり合う中で、助け・支え合い、相互理解を深めながら、お互いを尊重し合う関係性が生まれている。こうした包容力が地域内外でのさらなる交流を生み出している。	<ul style="list-style-type: none"> パブリックスペースを活用した地域活動の推進 団体の分野や世代を超えた交流を促進させるイベント実施
未来像9	誰もがまちづくりに関われるまち(※)	まちに関わる人々が主体的にまちづくりに参加し、まちを育てていける仕組みがあり、始める・支える・賛同するなど、様々な形でまちづくりに関われる機会が設けられ情報が共有されている。	<ul style="list-style-type: none"> 自主的なまちづくり推進体制及び日常的な情報発信などによる取組み参加推進の仕組み構築 まちづくりに向けた区民参加の仕組み構築

(※) 未来像9については、未来像1から8のそれぞれの実現に必要なものです。

(2) まちの空間デザインの大切な4つのポイント

9つの未来像実現のための取組みから抽出した、まちの空間デザインに関する取組みと基本方針で示す機能イメージ(※1)及び基盤整備イメージ(※2)を基に、整理したまちの空間デザインの大切なポイントは、「まちの個性・魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用」、「拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上」、「歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗換え、回遊性の向上」、「南北移動の円滑化、地下空間の活用・創出」の4つです。

この4つのポイントは、未来像と密接に関わり合っています。

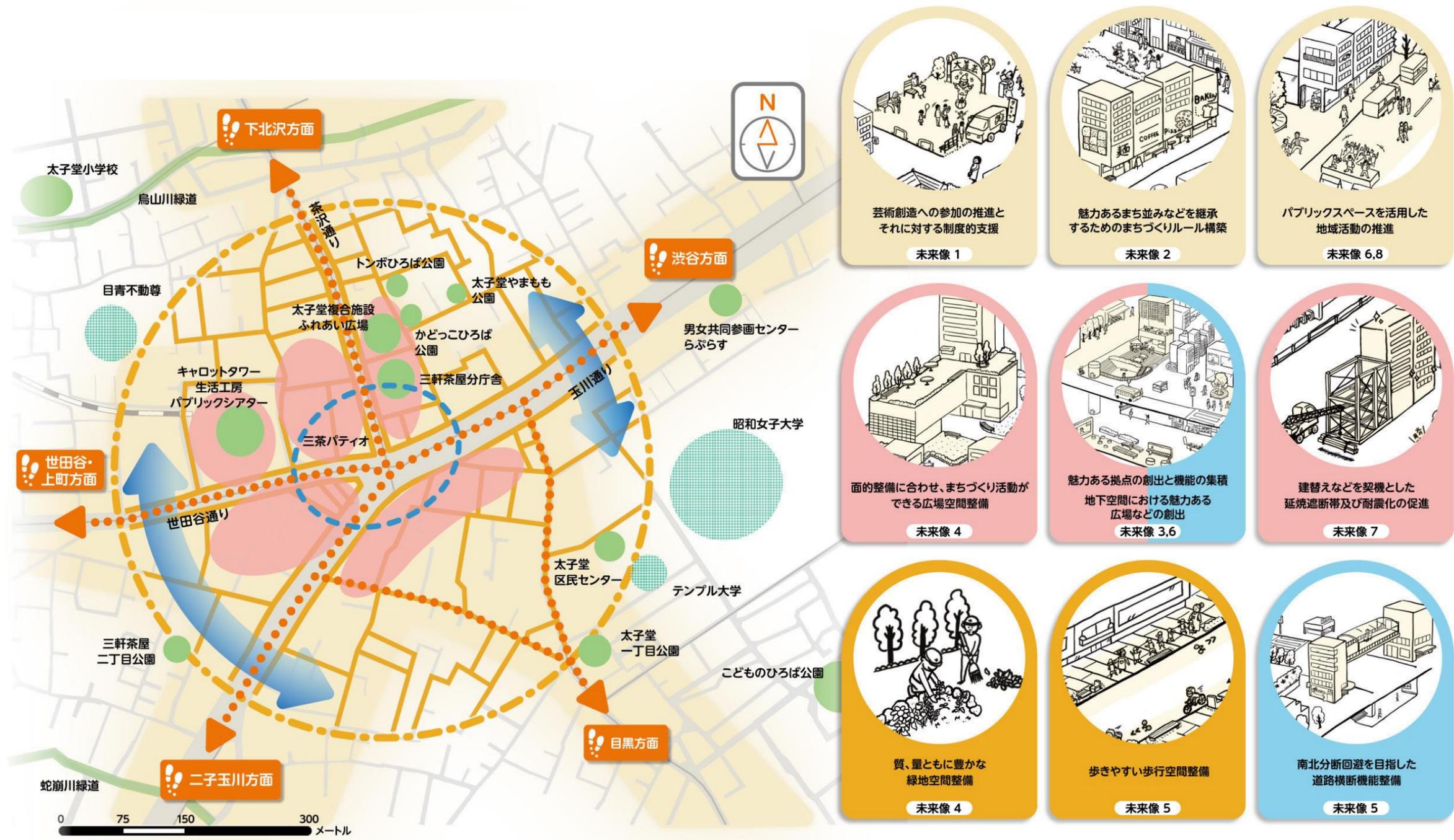
まちの空間デザインの大切な4つのポイント

まちの空間デザインの大切な4つのポイント	関係する9つの未来像	考え方
まちの個性・魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用 	未来像1：歴史を継承しアートを生み出すまち 未来像2：個性豊かな店が通りを彩るまち 未来像6：拠点性を生かして人々の活動を支えるまち 未来像8：暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち	まちの歴史や文化、個性豊かな店舗などの界わい性など、まちの個性の継承や、地域内外のさらなる交流など新たな魅力を生み出すために、魅力あるまち並みを継承するまちづくりのルール構築やパブリックスペースなどの活用を図っていきます。
拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上 	未来像3：暮らしの近くに「働く」があるまち 未来像4：くつろぎの空間が育まれるまち 未来像6：拠点性を生かして人々の活動を支えるまち 未来像7：災害に強く、安全・安心のあるまち	拠点ならではの機能の集約や防災性の向上を一体的に進め、人々の活発な活動を支えていくために、市街地の再構築による拠点の創出や、暮らしの近くで様々な働き方ができる環境などの機能集積と合わせて、広場空間整備や延焼遮断帯の形成及び建築物などの耐震化を図っていきます。
歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗換え、回遊性の向上 	未来像4：くつろぎの空間が育まれるまち 未来像5：誰でも気軽に出かけられるまち	まち並みとみどりが調和した居心地の良い場所を生み出すとともに、公共交通の利用や乗換えが快適となるよう、質、量ともに豊かな地域にするための緑地空間や歩きやすい歩行空間などを整備し、居心地が良く、歩きたくなるまちの回遊空間を充実させていきます。
南北移動の円滑化、地下空間の活用・創出 	未来像5：誰でも気軽に出かけられるまち 未来像6：拠点性を生かして人々の活動を支えるまち	地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できるなど、まち全体を繋げ、誰もが行きたいところに安心して移動できるように、南北分断解消のための道路横断機能や地下空間における魅力ある広場などの整備の誘導を図っていきます。

(※1) 基本方針で示す機能イメージは、「Crossingゾーン」、「玉川通り沿道ゾーン」、「魅力共存ゾーン」、「住宅地と商業地のバッファゾーン」の各ゾーンのイメージのことです。

(※2) 都市基盤イメージは、「スムーズな移動や乗り換え」、「パブリックスペースの創出」、「地下空間の活用」、「歩行者空間の充実」、「歩行者の南北移動の円滑化」、「回遊性向上に寄与する動線の強化」に関するイメージのことです。

まちの空間デザインのポイントイメージ図



<p>芸術創造への参加の推進とそれに対する制度的支援 未来像 1</p>	<p>魅力あるまち並みなどを継承するためのまちづくりルール構築 未来像 2</p>	<p>パブリックスペースを活用した地域活動の推進 未来像 6,8</p>
<p>面的整備に合わせ、まちづくり活動ができる広場空間整備 未来像 4</p>	<p>魅力ある拠点の創出と機能の集積 地下空間における魅力ある広場などの創出 未来像 3,6</p>	<p>建替えなどを契機とした延焼遮断帯及び耐震化の促進 未来像 7</p>
<p>質、量ともに豊かな緑地空間整備 未来像 4</p>	<p>歩きやすい歩行空間整備 未来像 5</p>	<p>南北分断回避を目指した道路横断機能整備 未来像 5</p>

<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> まちの個性・魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用 未来像 1,2,6,8 拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上 未来像 3,4,6,7 歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗換え、回遊性の向上 未来像 4,5 	<ul style="list-style-type: none"> 南北移動の円滑化 未来像 5,6 地下空間の活用・創出 未来像 5,6 	<p>回遊・交流に資する地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> 回遊路 公園、緑道、庁舎等の公共施設 大学、寺院等の公的施設
---	--	---

第4章

今後の展望

～みんなの思いをまちづくりに～

1 ソフトとハードが一体となったまちづくりの推進

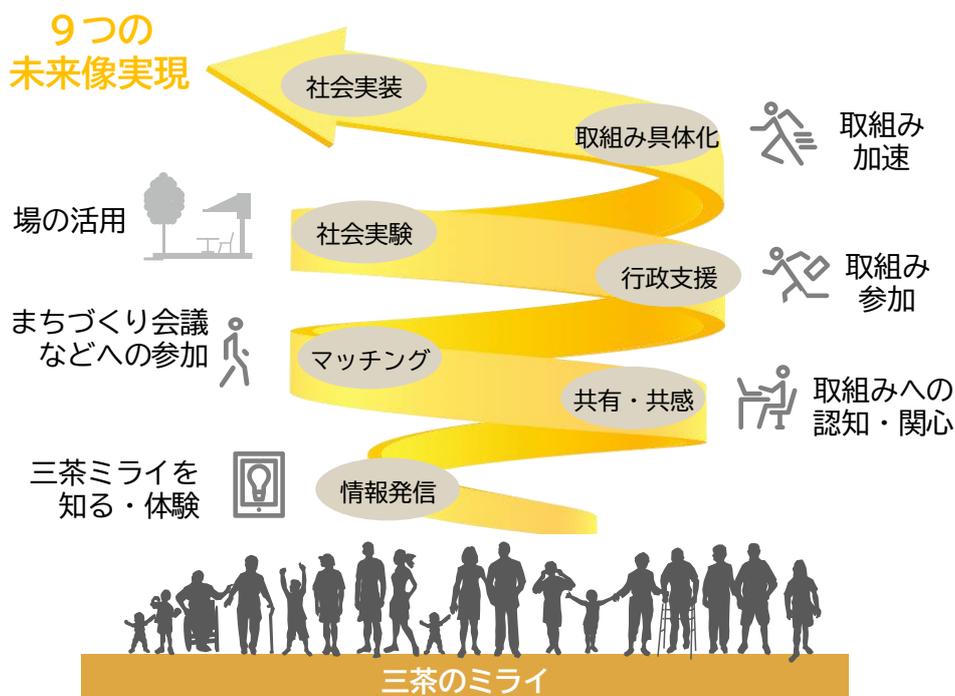
(1) 参加と協働による持続可能なまちづくり

9つの未来像実現に向けて、共に理解し、知恵を出し合い、協力しながら様々な立場で役割を担って、協働することが重要になります。加えて、近年の気候変動を考慮した対応や、今般のコロナ危機を乗り越えていくサステナブル・リカバリー*の考えにおいては、人々の意識や行動の変化に適応したまちづくりが求められており、今後の社会動向も踏まえた多様な主体の連携による新たな関係性の構築も欠かせません。

世田谷区の広域生活・文化拠点に位置付けのある二子玉川駅周辺においては「二子玉川エリアマネジメンツ*」が、下北沢駅周辺では小田急線上部周辺を対象とした「北沢 PR 戦略会議*」が、協働や新たな関係性の構築を図りながら、さらなるまちの魅力向上を目指して既に活動を始めています。

今後、「三茶のミライ」を基に、まちづくり推進体制の構築や、社会実験を中心にもみんなができる取組みに参加し、身近な活動を行いながら協働による持続可能なまちづくりを進めていきます。

みんなで取り組む9つの未来像実現のイメージ



(2) まちづくりを推進するための仕組みづくり

参加と協働による持続可能なまちづくりを推進するためには、まちづくりの担い手の連携や新規活動者の継続的な参加が重要です。これら2つの実現にあたり、まちづくり会議を発展させ、まちづくりの担い手が育ち、繋がる仕組みをつくりまします。

この「まちづくりの担い手が育ち繋がる仕組み（まちづくり会議の発展）（以下、「担い手が育ち繋がる仕組み」という。）」は、まちづくりの担い手同士のマッチング、人材育成、まちづくり会議などでの活動報告や新たなまちの動きなどの情報共有、さらに地域内外に対してまちの魅力を発信するといった役割を果たしていきます。



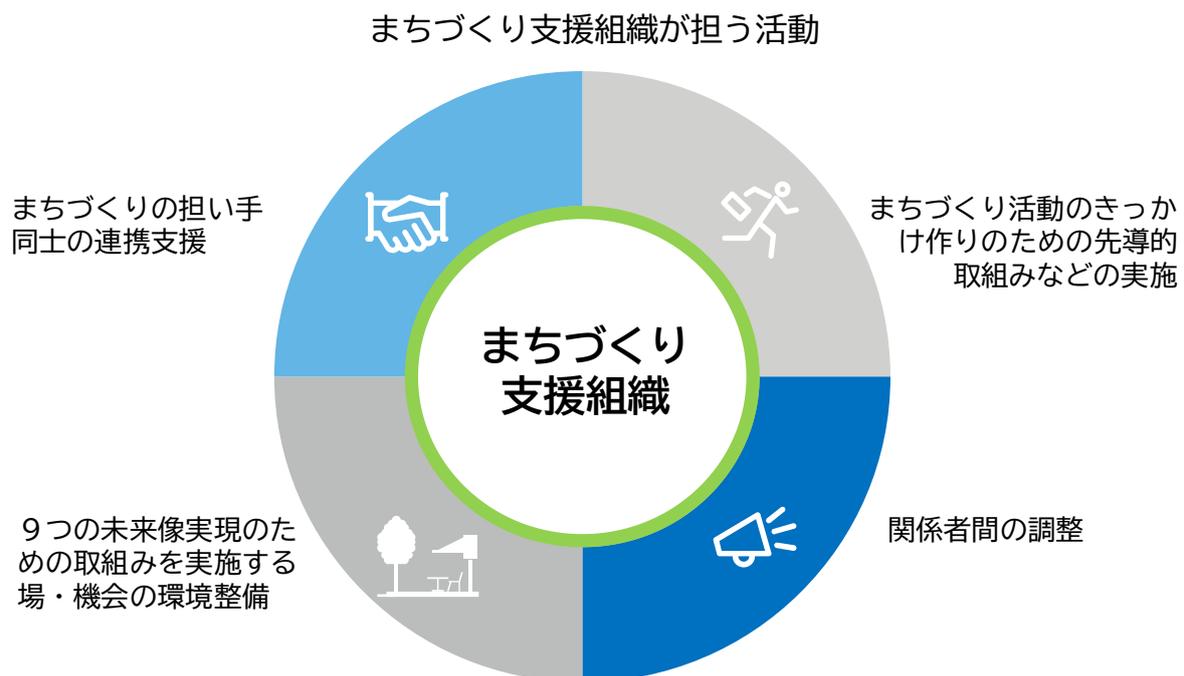
(3) まちづくりの担い手が育ち繋がる仕組みを支える組織について

まちづくりを推進するための担い手が育ち繋がる仕組みを支えていくには、行政主体ではなく、まちづくりを中立的な立場で支援する「まちづくり支援組織」が、その運営を担うことが、望ましいと考えます。

まちづくり支援組織は、担い手が育ち繋がる仕組みを介して、多様な担い手が、まちづくり活動の価値を高めていくための連携を支援します。

また、三軒茶屋駅周辺では商業地から住宅地まで幅広い土地利用がされており、地域活動で使用されている公共空間がある一方、十分に活用できていない空間も存在していることから、こうした空間の活用に向け、9つの未来像実現のための取組みを実施するための場や機会の環境整備と行政を初めとした関係者間の調整を行います。

さらに、まちづくり活動のきっかけ作りのための先導的取組みなどを展開し、担い手や世田谷区とともに、まちづくりの気運を高める取組みなど、まちづくりの推進における機能的でオープンな体制の一翼を担っていきます。



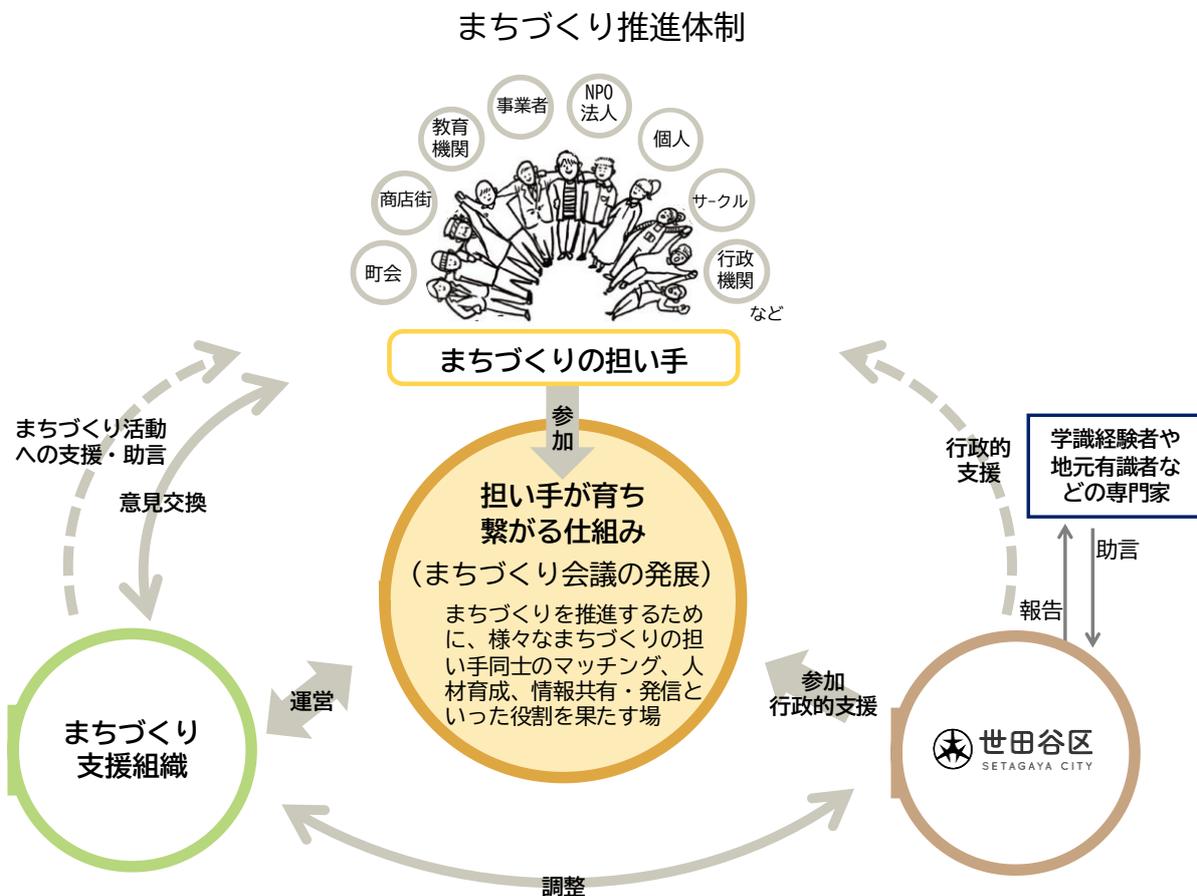
2 9つの未来像実現のためのまちづくり推進体制

持続可能な協働のまちづくりを推進するためには、まちづくりの担い手やまちづくり支援組織、世田谷区が、互いに関係性を持ちつつ、それぞれの立場や強みを活かしながらまちづくりに参加できる体制が必要です。まちづくり支援組織は、まちづくりの担い手に対し、必要に応じて助言や活動の支援、関係者との調整などを行い、9つの未来像の実現に向けて推進していきます。

また、学識経験者や地元有識者などの専門家は、「三茶のミライ」検討段階で設置しているまちづくり検討委員会の役割を後継した会議体として、今後の三軒茶屋駅周辺まちづくりに対して助言をしていきます。

世田谷区は、まちづくりの担い手の一員として、担い手が育ち繋がる仕組みに参加するとともに、公共施設や公的施設の利活用に向けた調整など行政的支援をしていきます。

三軒茶屋駅周辺では、様々な既存団体のまちづくり活動があるからこそ、区内外に誇れる魅力が生まれています。今後、まちづくりを進めていく上で、まちづくりの担い手が、まちづくり活動を展開するため、「三茶のミライ」を活用しながら9つの未来像実現のための取組みを積み重ね、みんながまちづくりに関わることができるまちづくり推進体制の構築をしていきます。



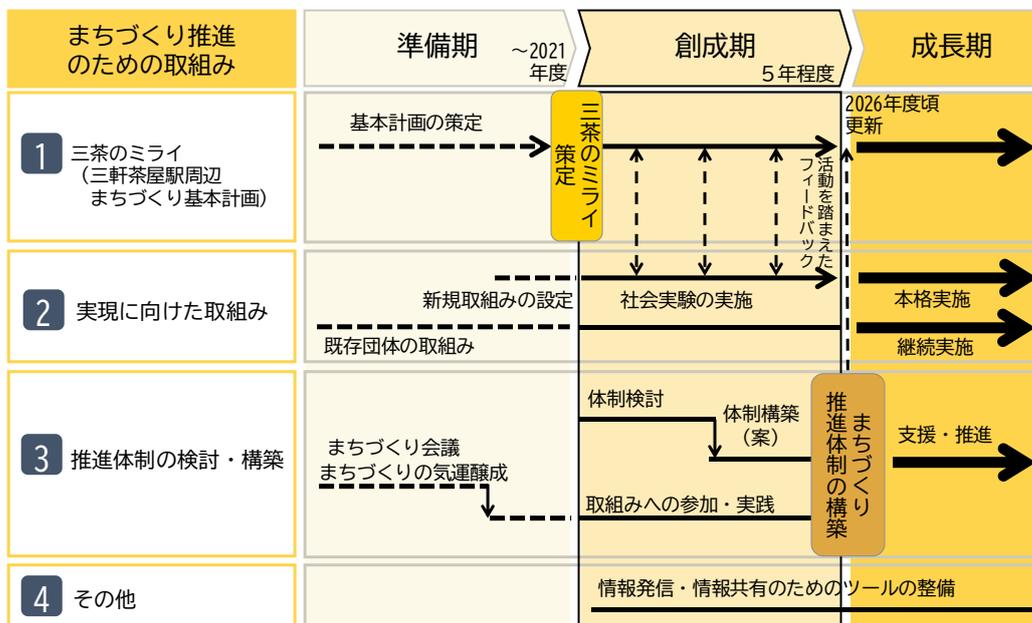
3 ソフトとハードが一体となったまちづくり推進プロセス

まちづくり推進体制の構築は、みんなと信頼関係を築き、徐々に規模を拡大・強化しながら進めていきます。まちづくり推進体制構築を進める中で、それぞれが担うべき役割や関係性は変化していくことから、「準備期」「創成期」「成長期」に分け、推進プロセスとして整理しました。

準備期から創成期については、新たなまちづくりの担い手やまちづくり支援組織の育成のため、まちづくり会議を継続的に開催していきます。また、社会実験を中心とした多様な主体と連携した身近な活動（清掃活動、防災訓練など）や、まちの空間デザインの検討、公共施設や公的な施設の地域資源の利活用などの9つの未来像実現のための取組みを推進し、まちづくりの気運と熟度を高めていきます。さらに、学識経験者や地元有識者などの専門家の助言も受けながら、まちづくりの担い手が積極的かつ様々な形でまちづくりに関与できる、まちづくり推進体制の構築を進めていきます。

成長期では、社会実験やみんなと連携した活動のフィードバックから、今後のまちづくり活動と広域生活・文化拠点としてのまちの発展に向けた取組み内容を具体化し、その取組みを計画的に進めることにより「三茶のミライ」を実現していきます。また、引き続き、世田谷区は、各分野と横断的に連携しながら調査・検討を進め、広くまちづくりの情報発信や情報共有にも取り組んでいきます。

まちづくり推進プロセス



○ 社会実験とは

まちづくり会議や地域の方々とともに新たな施策の課題や実施効果などを検証する取組みであり、今後、公共的な空間を利活用した活動などを積み重ねていきます。まちの成長期を見据え、地区計画など街づくりの取組みを行いながら、まちの空間デザインの4つのポイントで示す、パブリックスペースの活用や拠点性を活かした都市機能集積などの具体化に繋げていくものです。



公共的な空間を利活用した歩行者滞留空間創出イメージ

結びに

これからのまちづくりの可能性 ～みんなと三茶のミライ～

これからのまちづくりの可能性について、「他者との連携・自らがやれることをやる」、「地域デビューのきっかけづくり」、「世田谷区の東の玄関口としての多様性」など、まちづくり会議で挙げられた意見やまちづくりシンポジウムのトークテーマに沿って、『まちづくり検討委員会の委員からメッセージ』をいただきました。

「みんな」の手の中にある「三茶のミライ」

坂井 文（東京都市大学都市生活学部都市生活学科教授）

◇ 参加と協働のまちづくりの変容

現在、都市に住む人口の増加傾向は世界でみられ、多様な価値観やライフスタイルが共存する都市生活の質をいかに高めていくのか模索されています。

そうした中、まちづくりも変容してきています。空間づくりから場づくりへというプレイスメイキング*の流れがあり、都市の整備というハードと人々の利活用というソフトの一体的なまちづくりが目指されています。エリアの価値を高める活動を展開するエリアマネジメントにおいても、プレイスメイキングは重要なコンセプトです。また、短期的アクションが長期の変革をもたらすとして、小さなアクションから都市を変えるタクティカル・アーバニズム*の取組みがアメリカでは10年程度前から進んでいます。アクションにはビジョンがあり、こうしたまちにしたいという想いを共有するプロセスともいえ、近年日本でも実践され始めています。こうした取組みは行政だけでなく、企業や市民とともに進める幅広い公民連携がますます重要になってきています。

◇ 三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体と描いた「三茶のミライ」

「三茶のミライ」は、まちづくり会議やまちづくりシンポジウムを経て、作成されました。これまでの行政の基本計画の策定は、住民参加を進めながら今後の行政によるまちづくりの進め方の方向性を示してきました。「三茶のミライ」は、議論を重ねるうちに、区民・事業者・町会・商店街・大学などと区がともに主体としてまちづくりを進めるための計画になりました。

◇ 三茶らしいこれからのまちづくりに向けて

身近なまちの関心事をまちづくり会議などで意見交換し、想いを共有し、そこから何かしらのアクションを展開することは、生き生きとした多様な都市生活に満ちたまちのアップデートともいえます。皆さんの手の中にある「三茶のミライ」が、三軒茶屋駅周辺のまちを持続可能に発展させていくための羅針盤となり、三茶らしいこれからのまちづくりが展開していくことを願っています。

「こころとからだ」の中のアート～アートというインフラが人と人を繋ぐ～

曾田修司（跡見学園女子大学マネジメント学部教授）

◇ これまでの三軒茶屋駅周辺でのアートの取り組み

三軒茶屋駅周辺に住まう人たちが訪れる人たちは、このまちで何か面白いことが起こりそうな、わくわくする気分を感じている人が多いのではないのでしょうか。もしかすると、そのわくわく感のうちの何割かは、まちなかで行われる三茶 de 大道芸*の楽しさ、太子堂八幡神社例大祭での太子堂西山囃子保存会*の活動など、劇場の外においてもさまざまなアートが息づいている印象があるからではないのでしょうか。

また、現在に至る三軒茶屋駅周辺のまちづくりのイメージ形成に大きな役割を果たしてきた、世田谷パブリックシアターと生活工房の多彩な活動を忘れるわけにはいきません。劇場で質の高い演劇を日常的に味わえる体験や、子どもへの演劇を通じたワークショップ、生活工房での展示や交流など、三茶というまちの日常には多彩なアートや文化の広がりが見てとれます。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止として、世田谷パブリックシアターの公演中止や、三茶 de 大道芸では、観客の整理誘導が難しい屋外会場の開催を中止するなど、アートへの影響は大きいものでありました。

◇ ダイバーシティ（多文化共生）*への回路としてのアート

現在の状況だけでなく、過去を振り返れば、時代によって社会全体も地域コミュニティも少しずつ変化を続けて来ました。これからの社会では、人と人との間に、みんなが今までに経験して来なかった関係をつくりあげていくことで、多様性が包摂される寛容な社会になっていくことが期待されます。演劇がそうであるように、アートには不思議な力があり、人が人を演じることや、他人の立場になってみることで、他者への想像力が立ち上がり、異なる背景や素地を持つ人たち同士が、「いま、ここ」を共有することが可能になります。

人と人を繋ぐ架け橋となるアーティスト

アーティストは、他の人たちとはひと味違った独自の視点を見せてくれる人たちです。異なる視点を提示することで人と人をつないでいくのがアートの役割です。桁外れも当たり前も、アートにかかれば見違えるようにいきいきと輝きを放ち始めます。

図書館やまちの書店が古今東西の膨大な知の集積を現代の日常生活の中にさりげなく提供してくれているように、劇場や美術館・博物館は、世界中の歴史と文化から産み出された人間の「こころとからだ」に関わる知恵と知識が無限の豊かさを持って集積されている場です。アーティストたちは、古代から現代、そして未来に至るまで、人と人との関係づくりの専門家であり、コミュニ

ティの専門家であり続けて来たとも言えます。その意味で、アートの存在そのものが社会のインフラであるとも言えるのではないのでしょうか。

これからも、例えば、世田谷パブリックシアターでの子どもたちへのワークショップ、インターネット上の多種多彩なデジタル・アート*の展開による新たなつながりの創出、あるいはまた、「まちづくりシンポジウム*」の記録をいきいきと伝えてくれたグラフィック・レコーディングなどに見られるように、従来のアートの枠を自在に広げていく表現が生活のさまざまな場面で次々と生まれてくるでしょう。

他の自治体における活動を例にとれば、神戸市新長田地区で開催され多彩なコミュニティの人たちが参加している「下町芸術祭」や、高齢者や日雇い労働者の人たちが独自のアート活動を展開する「さいたまゴールドシアター」（埼玉県）、「釜ヶ崎オ！ペラ」（大阪市西成区）などは、アートの間口や奥行について可能性を押し広げようとする好例と言えます。

☆ 誰もがアートを通じてコミュニティの形成に参加するために

世田谷パブリックシアターの芸術監督を務める野村萬齋氏は、令和3年1月13日朝日新聞掲載の座談会記事において、狂言の最初に登場する人物の決まり文句である「このあたりのものでござる」という名乗りについて語っています。「このあたりのもの」とは英語で言えば、「I amではなくてWe are」ではないか（大意）と。これは、演じ手とその場の語りの受け手である観客とが、その都度コミュニティを形成していることの表明であり、そこには、新たにコミュニティに入ってくる人たちの参加を歓迎し、「誰も取り残さない」ようにしようとする懐の深さを感じられます。コミュニティが内に閉じられることなく開かれたものであるよう、新たなメンバーの受容を促進する「多様性の包摂」こそが、コロナ禍の先を見据えたこれからのアートに求められている役割だと言えるのではないのでしょうか。

人と人との繋がりの中にある地域団体の役割

飯島祥夫（三軒茶屋銀座商店街振興組合理事長）

◇ 人の暮らしを支える商店街

三軒茶屋銀座商店街振興組合は、三軒茶屋駅の北側の商店街で、茶沢通りを中心に、太子堂二丁目、四丁目に広がっており、大型店舗や有名チェーン店、きらりと輝く個性的なお店が軒を連ねる商店街となっています。

また、ターミナル駅のような大きな拠点とは異なり、個性豊かな店舗が魅力となっており、後背地に広がる住宅地と合わせ、職住近接のまちであることも特長となっています。

大きな拠点をメロンに例えると、三軒茶屋駅周辺は、店舗一つひとつが豊かで輝く葡萄のような拠点です。商店街は、その豊かな粒を結ぶ枝の役割を果たしていきたいと考えており、これまで、たくさんのお客様にお越しいただくとともに、コミュニティの担い手として、地域の安全安心に向けた活動に取り組んできました。

◇ 地域のハブとして人と人を繋ぐ

代表的な商店街活動としては、街路灯や消防設備の維持管理、清掃活動をはじめ、ふれあい広場や日曜日の歩行者天国を利用して、サンバパレードや大道芸、地方自治体と組んだ物産展など、いろいろな地域活性化のイベントを行ってきました。また、共生社会を目指して社会福祉法人世田谷ボランティア協会や、特定非営利活動法人わんぱくクラブ育成会、世田谷区立男女共同参画センターらぷらすなど様々な団体や、地域の大学である昭和女子大学、テンプル大学とも協力して活動を行ってきております。

活動を通じて、多様な方々と触れ合い繋ぐことが、商店街の大きな役割の一つであり、近年では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために、対面によるイベントが制限される中でも、オンラインでのイベントの開催や、キャッシュレス決済などのデジタル化を推進するとともに、ケーブルテレビ局と、商店街の紹介動画を作成し、三軒茶屋をテーマとした動画コンテストを開催するなど、これからも地域のハブとなり、人と人を繋いでいきます。

◇ 商店街をはじめとしたこれからの地域団体の役割

今後、商店街だけでなく、様々な地域団体が連携を図りながら、三軒茶屋を通して繋がり合っていくことが大切ではないかと考えています。

人と人との繋がりの中から、新しいアイデアの創出や、地域の活性化につなげ、三軒茶屋駅周辺のまちづくりに取り組んでまいります。

暮らしの中での働き方が地域を変える

中島智人（産業能率大学経営学部経営学科教授）

◇ コロナ禍における働き方の変化

新型コロナウイルスの感染症の拡大は、私たちにさまざまな「新しい生活様式」をもたらしました。特に「働くこと」についていえば、まず、オンラインツールを活用したテレワーク*の普及があげられるでしょう。以前から官民挙げた「働き方改革」の議論でも、長時間労働の是正や柔軟な働き方を指す方法としてテレワークや副業・兼業の推進が提唱されてきたものの、コロナ禍前までは私たちに身近な働き方となったとは言い難い状況でした。

しかし、東京都の「テレワーク導入率調査結果（令和3年3月前半）」によると、2度の緊急事態宣言を経た令和3年3月時点には、対象となった都内企業（従業員30人以上、446社）のおよそ6割がテレワークを導入しており、コロナ禍が続く中、瞬く間にテレワークが私たちにとっての新しい日常として受け入れられたと言えるのではないのでしょうか。

◇ 働き方の変化がもたらした日常生活への関心の高まり

こうした働き方の変化は、これまで自分たちが暮らす地域とあまり関わりをもたなかった人たちが、新しいつながりを作る機会になったと考えられます。在宅勤務により、日々の生活に必要なモノやサービスを提供している地元の商店や飲食店を知り、利用する機会が増えた人も多いのではないのでしょうか。あるいは、オフィスや自宅以外の仕事場として、地域のカフェやコワーキングスペース*を利用し、他のワーカーとの交流が生まれることもあります。さらには、いわゆる「エッセンシャルワーカー」と呼ばれる医療・福祉に携わる人たちが文字通り私たちの生活を支えている、という実感をもった人もいます。オフィスワークでの日常では、目を向けることができなかった日常生活への関心を誰もが持つようになったのではないのでしょうか。

◇ 働く人たちに生まれた価値観の変化

自分たちが暮らす地域との関わりが増えていく中で、単なる働く場所や形態の変化を超えて、「働くこと」についての価値観にも変化を与えていると考えられます。「働くこと」が、自分やその家族の生活を支える手段だとすれば、経済的な活動（つまり「稼ぐこと」）と同時に、社会的な活動も重要であるという気づきであり、そこに自分自身の関心、時間、あるいは労力をかけようという変化です。私たちの生活を地域で支えている事業者を応援したいという消費行動の変化だけではなく、日常生活圏での支えあいの活動に参加したり、その活動を支援したり、場合によっては自分たちや仲間と新しい活動を立ち上げ

たり、と具体的な活動に主体的にかかわるような行動の変化も生まれてきています。「働くこと」が、経済的な面だけではなく社会的な面も含むと認識した人たちは、モノやサービスの単なる消費者ではなく、地域を支える主体者であり、資源となるのです。

◇ 価値観の変化をまちづくりに活かすために

新型コロナウイルスの感染症の拡大は、私たちの生活に大きな変化をもたらし、一方では、さまざまな社会的課題を顕在化させました。しかし、他方では、暮らしの中で働くことを通じて、自分たちの生活を見つめ直し、住みやすい地域づくりにさまざまなかたちで貢献したいという住民を増やしたこともなったと言えます。持続可能なまちづくりにとっては、自分たちの生活圏域の課題や可能性に関心をもった人たちは、まちづくりの主役となる貴重な資産（キャピタル）であり資源（リソース）です。地域の人たちの想いを受け止め、行政、事業者、団体などとの連携を促すことにより、まちの好循環が生まれるのではないのでしょうか。

「三茶に暮らす人たち」のための仕事場から始まったまちづくりへの関わり

吉田亮介（三茶ワークカンパニー株式会社 共同代表）

◇ 三茶に暮らす人たちのための仕事場

三軒茶屋駅から徒歩1分、茶沢通り沿いのビルにある「三茶 WORK」は、2019年8月にオープンしたコワーキングスペースです。オープン以来、三軒茶屋界隈に暮らすデザイナーや Web エンジニア、編集者など様々な職種の方たちに日々ご利用頂いており、新型コロナウイルス感染症の拡大で働き方が変化してきた昨今では、テレワーク利用の会社員の方も増えています。

オープンから約1年半経った令和3年3月には、約180名の会員登録があり、そのおよそ8割は三軒茶屋駅周辺に住んでおり、世田谷区に暮らす方たちも含めると9割を占める、地域密着、職住近接型のコワーキングスペースです。

◇ はじまりは、まちの人たちの「妄想」から

きっかけは2018年の春、「三茶にコワーキングスペースが欲しい！」と妄想していたまちの人たちが出会ったことでした。当時、コワーキングスペースといえば都心、渋谷や六本木など山手線の内側のエリアに集中しており、快適なワークスペースで仕事をするためには、三軒茶屋から満員電車での移動など「我慢」が必要でした。そこで「三茶にコワーキングスペースがないなら、自分たちでつくろう！」と出会ったメンバーが意気投合、実現に向けて動き出しました。

◇ つくる過程で出会った、まちに暮らす多様な人たち

しかし、それ以降「物件探し」でプロジェクトは難航しました。飲食店がひしめき合う三軒茶屋の中で、家賃や立地、広さなど、コワーキングスペースに適した物件が見つからないまま半年が過ぎ、メンバーの間でも「三茶では難しいんじゃないか…？」と諦めムードが漂い始めた頃、三軒茶屋に代々暮らす一人の大家さんとの出会いがありました。「このまちにコワーキングスペースが欲しい！」という想いに大家さんもお賛同してくださり、ついにプロジェクトが本格的にスタートしていきます。

プロジェクトを通じて、三軒茶屋に暮らす建築家や Web デザイナー、編集者、起業家、マーケッターなど様々な領域で活躍する人たちが集まり、さらにクラウドファンディング*等を経て、「妄想」をはじめてから約1年後に三茶 WORK が完成しました。

☆ ただ働くだけじゃない、まちとつながる仕事場

コロナ禍による在宅勤務やテレワークがオフィスワーカーにも広がっている中で、「自宅での仕事は限界」という課題や「家の近くで快適に仕事がしたい」といった時代のニーズに合致したこともあり、三茶 WORK はまちの方たちに利便性高く利用してもらえる場に成長しました。一方、そんな利便性だけではない、まちの人たちやまち自体とつながる豊かさも生まれ始めています。

所属する組織問わず、会員同士での仕事が生まれたり、同じ趣味を持つ会員が集まってバスケット部を発足したり、オリジナルのクラフトビールをつくるプロジェクトが立ち上がったり、最近では三茶 WAVE というインターネット上のラジオ番組も始まりました。さらには、2020年春の緊急事態宣言発令時に、三軒茶屋の飲食店の方たちとクラウドファンディングを実施するなど、まちで活動するひとたちと連携した取組みが自然発生的に始まりました。

こうした、まちで活動する人たちとの連携を生み出すまちのコワーキングスペースは、単に生産性高く仕事ができるオフィスに留まらない、まちでの暮らしをより豊かなものにしてくれる仕事場になっていく可能性を感じています。

☆ 自分たちのまちで、妄想を形に

これまでの三茶 WORK での活動を通じて、「自分たちのまちにこんなことがあったらいいのに！」と同じ妄想を持つ人たちが組織や立場を越えて集まり、互いが持つ特技や経験はもちろん、資産や資本も含めて持ち寄り、みんなで妄想を形にしていくことが、自分たち自身の暮らしをより良くしていくことにつながっていくのではないかと感じています。そしてこのことは、これから「まち」の持続的な発展を見据えた際、非常に重要なアプローチになってくるのではないかと考えています。

そのため、今後もまちの様々な組織や人たちと協働しながら妄想を形にしていくことを大切にしていきたいと思えます。

用語解説

あ行

■ エリアマネジメント

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるため、住民・事業主・地権者などが主体的に行う取組みのことです。例えば、公共空間の整備・管理、情報発信、イベントの実施などがあります。

■ オープンスペース

みんなが使用できる公共と民間の土地です。例えば、広場、パティオ、連絡通路、公開空地などがあります。

か行

■ 北沢 PR 戦略会議

「北沢 PR 戦略会議」は、小田急線の上部空間に整備を進める各施設の活用や周辺部を含む「まちの魅力」を高める取組みを検討し、実践する場として区民や世田谷区などが協働して、平成 28 年度から開催しています。テーマ別の 9 つの部会活動を中心に、各部会の活動報告や意見交換の場として全体会議を開催するとともに、活動報告会では、その成果を地域に向けて発信しています。

■ クラウドファンディング

群衆 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語で、インターネットのサイトでやりたいことを発表し、賛同した人から広く資金を集める仕組みです。2011 年の東日本大震災をきっかけに、支援したお金の用途が分かること、小額から支援できる気軽さなどから、被災地の復興に必要な資金を集めるために大きな役割を果たし、注目されるようになりました。

■ グラフィック・レコーディング

議論や対話などを絵や図を用いて可視化して記録していく手法です。議論や対話などの内容を 1 つの絵として見せることで、関係性や構造が直感的に分かり、全体を俯瞰でき、参加者の認識が合わせやすくなるという利点があります。

■ コワーキングスペース

“Co (共同の、共通の)” と “work (働く)” の造語から名付けられた空間で、異なる職業や仕事を持った人たちが “共に働く” 場としてデザインされています。テレワークによる在宅勤務など、拠点オフィス外での勤務が認められている会社員

や、個人事業者、スタートアップの起業家、ノマドワーカーらを中心に、利用が進んでいます。

さ行

■ サステナブル・リカバリー

コロナ危機で縮小した経済などを回復していく過程において、持続可能な社会へ移行していくことを目指す（持続可能な回復）という考え方で、東京都はその実現を提唱しています。

■ 三茶 de 大道芸

三軒茶屋のまちなかで、様々なパフォーマンス、屋台、似顔絵コーナー、アート楽市などが行われる大道芸フェスティバルです。

■ シェアドスペース

道路の信号や標識をなるべく撤去して空間デザインに配慮し、最低限の交通ルールと人々のコミュニケーションによって歩行者と車の共存空間に再構築するというものです。これは、従来、信号や標識を守っていれば安全だと考えられていた道路が、逆に安全でなくなったと感ずることで、ドライバーが速度抑制を図り、結果的に安全になる、という論理です。速度の抑制など交通安全性が向上し、オープンカフェやイベントが行われることで魅力的な空間が創出されるという効果が期待できます。

■ 職住融合

職場と住宅の一体化のことです。もともとは東京オリンピックの開催で予想された交通混雑緩和の改善策として在宅勤務などが推進された背景がありますが、新型コロナの感染拡大による外出自粛の影響で住宅の一部をオフィス化する流れが生まれました。

■ ストリートファニチャー

歩道などに設置された誰でも利用できる椅子や机のことです。

た行

■ 太子堂西山囃子保存会

江戸時代後期から明治時代初期にかけて太子堂にお囃子の文化があったと伝え聞いた地域住民がこの会を立ち上げ、お囃子の練習や伝承などを行っています。

■ ダイバーシティ（多文化共生）

民族、国籍、性、年齢、障がいや病などの状況、宗教、政治信条、価値観、専門

性、職業、ライフスタイル、経験など、属性や背景や考え方の面で多様な人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくことです。

■ タクティカル・アーバニズム

これまでの行政が策定した都市計画に沿ったまちづくりとは異なり、市民による社会実験や暫定利用を行いながら、まちの最終的な姿を考えていく方法です。

■ テレワーク

情報通信技術（ICT=Information and Communication Technology）を活用して、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことです。Tel（離れて）と Work（仕事）を組み合わせた造語で、本拠地のオフィスから離れた場所で、ICTを使って仕事をすることです。働く場所で分けると、在宅勤務、移動中や出先で働くモバイル勤務、本拠地以外の施設で働くサテライトオフィス勤務があります。

■ デジタル・アート

従来の絵画や彫刻と異なり、デジタルコンピュータを使って生み出される芸術作品のことです。例えば、プロジェクションマッピング、テレビ・映画・ゲームなどで使われるCGやグラフィックデザインなどがあります。

■ 都市再生推進法人

まちづくりに関する豊富な情報・ノウハウを持ち、運営体制や人材などが整っている優良なまちづくり団体に、都市再生特別措置法に基づいて地域のまちづくりを担う法人として、市町村が指定するものです。あわせて支援措置を行うことで、その積極的な活用を図る制度です。都市再生推進法人には、自治体や民間デベロッパーなどでは十分に果たすことができないまちのエリアマネジメントを展開することが期待されています。

な行

—

は行

■ 二子玉川エリアマネジメント

「二子玉川エリアマネジメント」は、二子玉川東地区再開発事業を契機とする二子玉川地区における持続可能なまちづくり活動を進めるエリアマネジメント団体です。街の価値を高め、人々の幸せを育むことを目的に、玉川町会、東急（株）、東神開発（株）により平成27年に発足しました。令和2年に都市再生推進法人に指定され、これまで進めている多摩川の水辺空間利活用・演出、公益還元、街づく

り支援・協力などの活動に加えて、都市再生整備計画に基づく河川敷地占用許可制度を活用した事業及び屋外広告物事業などに取り組んでいます。事業などで得られた収益は、一定のルールのもとまちづくりに還元していく自立的で持続性のあるまちづくりを進めています。

■ 歩行者利便増進道路（ほこみち）

にぎわいのある道路空間を構築するための道路の指定制度として、創設されました。ほこみちに指定された道路では、新たな道路構造基準が適用され、歩道などの中に“歩行者の利便増進を図る空間”を定めることができます。

■ プレイスメイキング

都市空間の魅力を増進させ、居心地の良さや都市環境、生活の質を高める場所づくりの概念です。

ま行

■ まちなかウォークアブル推進プログラム

都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会から提言された、「『居心地が良く歩きたくなるまちなか』から始まる都市の再生」を受けて、まちなかウォークアブル推進プログラムとして予算や税制改正などが取りまとめられています。また、このプログラムに賛同し、情報共有や意見の提案などを行う自治体を募集・公表して施策が推進されており、世田谷区もこのプログラムに賛同しています。

■ まちなかの居心地の良さを測る指標

まちなかウォークアブル推進プログラムを受け、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成に取り組む地方公共団体を支援するため、まちなかの状況を歩きながら簡易に現状把握し、改善点を発掘するツールとして指標が作成されています。

や行

—

ら行

■ レーンマネジメント

道路の交通の流れを円滑化することを目的に、道路の区間や車線を対象に、条件を満たした車両にのみ通行を認める車種別通行規制などの方策により、当該道路区間の利用状況を能動的にコントロールする交通運用技術のことです。

わ行

—

発 行：世田谷区	
編 集：世田谷総合支所街づくり課	都市整備政策部市街地整備課
住 所：世田谷区世田谷4-21-27	世田谷区玉川1-20-1
電 話：03-5432-2872	03-6432-7155
F A X：03-5432-3055	03-6432-7982
